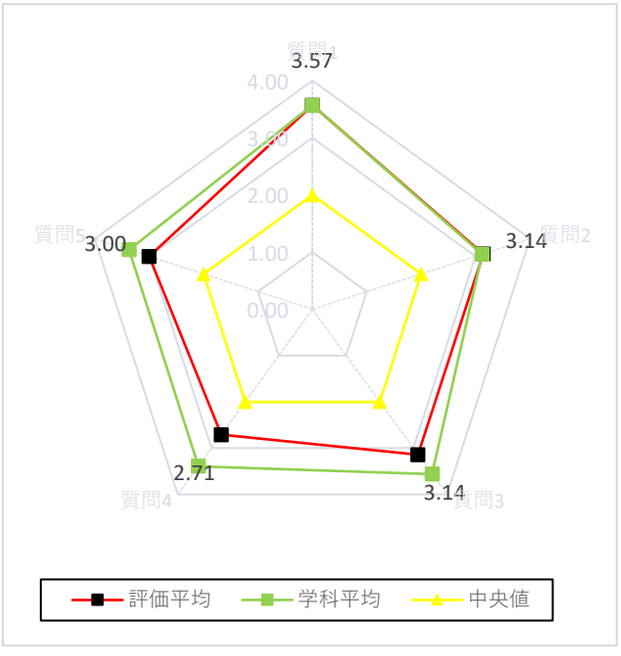
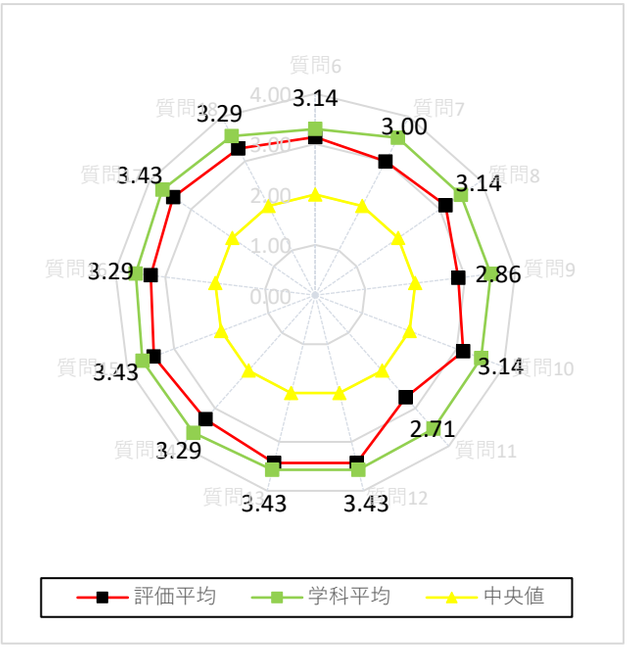
学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろうⅠ 基礎（初年次教育含）	14名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

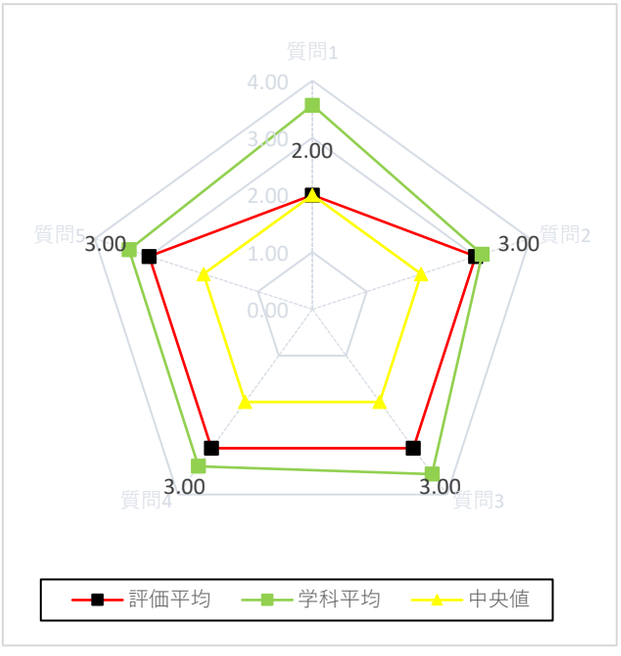
1年生は入学して早々遠隔授業となり、その間あすなろうⅠを含めて十分にフォローできなかったという反省がある。コロナ禍を言い訳にせず、1年生の満足度を高められるような授業運営を心がける必要があると考えている。

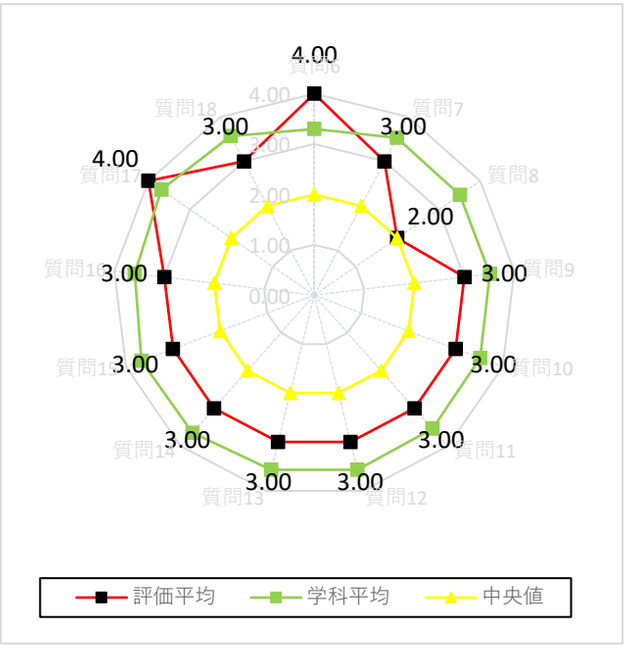
（３）次年度に向けての取り組み

あすなろうⅠの授業改革をしている。教員と1年生とのコミュニケーションをとる機会を増やすのはむろんのこと、1年生同士、あるいは1年生と上級生の交流を深めるようなカリキュラムを組み立てている。また、西九州大学に愛着を持てるようなプログラムを組み、学生満足度の向上を目指している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）	7名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

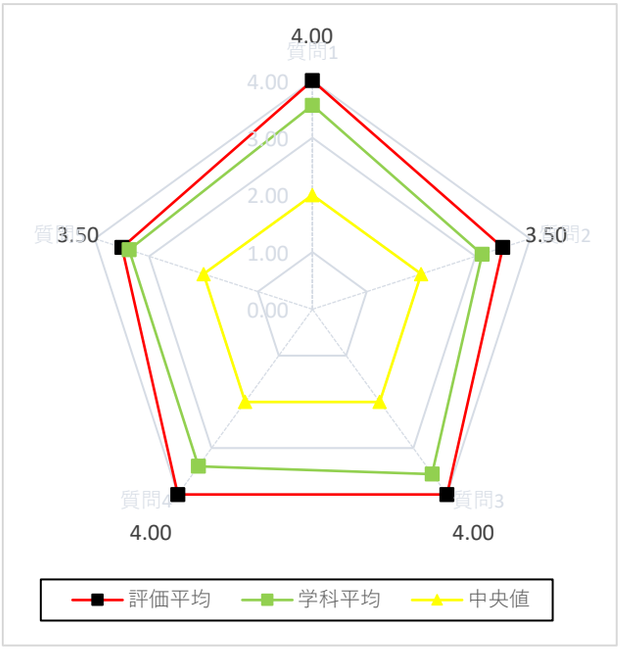
アンケートの回答学生が1名のため、この授業への分析、評価は難しいと思われるが、ほぼ3.0の結果が得られたことで良好と思われる。ただ、質問8が2.0であったことは、今後の授業改善が必要と考えられる。

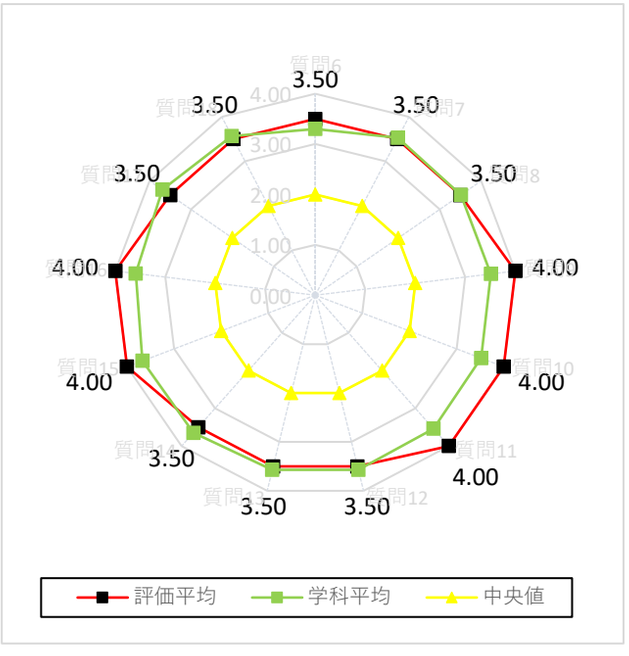
（３）次年度に向けての取り組み

新型コロナ禍の状況で内容の変更等が求められ、十分な授業ができなかったことは事実である。学科全体で取り組んでいるこの授業を次年度は少しでも興味や関心がもてる授業内容に改善したいと考える。また、回答率が低かったことも反省し、次年度へ向けて学生へ案内したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろうⅠ　基礎（初年次教育含）	6名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

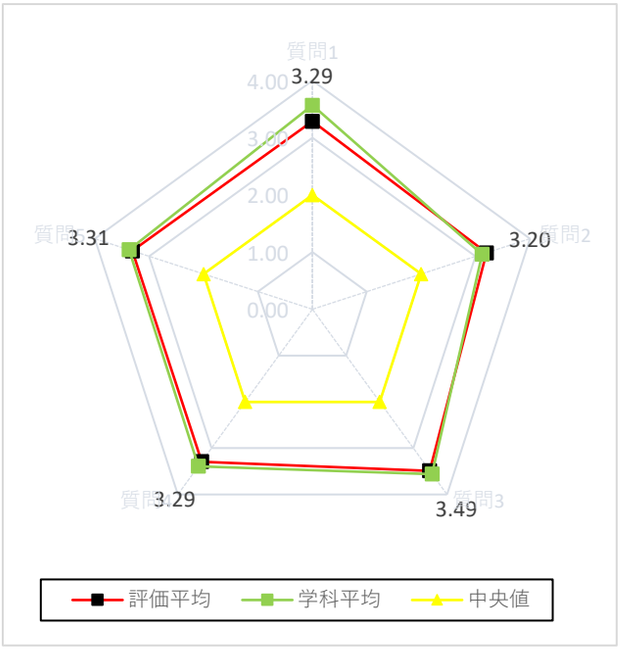
6名中、2名から回答を得た。
全体的に高い値を示した。特に学生自身の授業態度は高い結果となっている。
現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生自身の評価・満足度がさらに高まるような工夫をしていきたい。

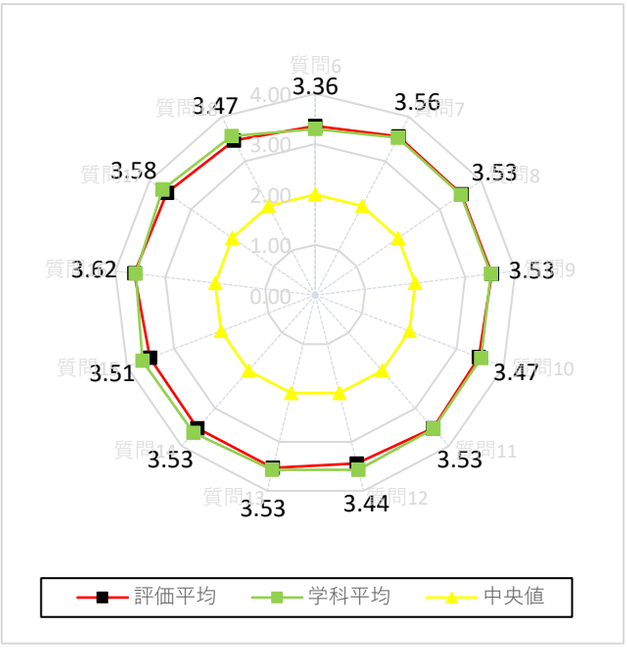
（３）次年度に向けての取り組み

授業内容から必然的に全体授業が多くなり、ゼミ別での指導機会が少ない現状があるが現在の授業展開に特に問題となる点は見られない。生活および学修面での支援を中心学生自身の総合自己評価が高まるよう、授業計画や目的を明確に説明し学生自身が学習成果を確認できるような工夫をしていくことに努めたい。なお、導入した新聞コラムの要約課題は学生の能力向上に繋がっているのかどうかの検証が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ文化論	49名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

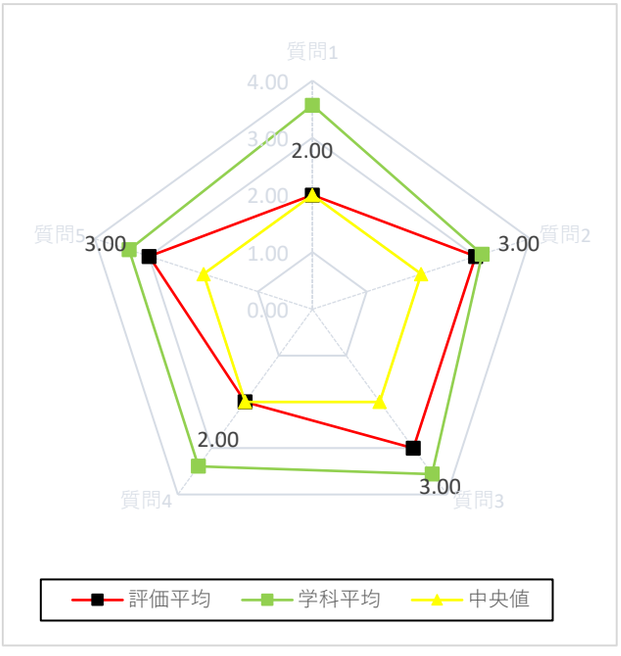
全ての項目で学科平均値を上回っている。現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生自身の評価・満足度がさらに高まるような工夫をしていきたい。

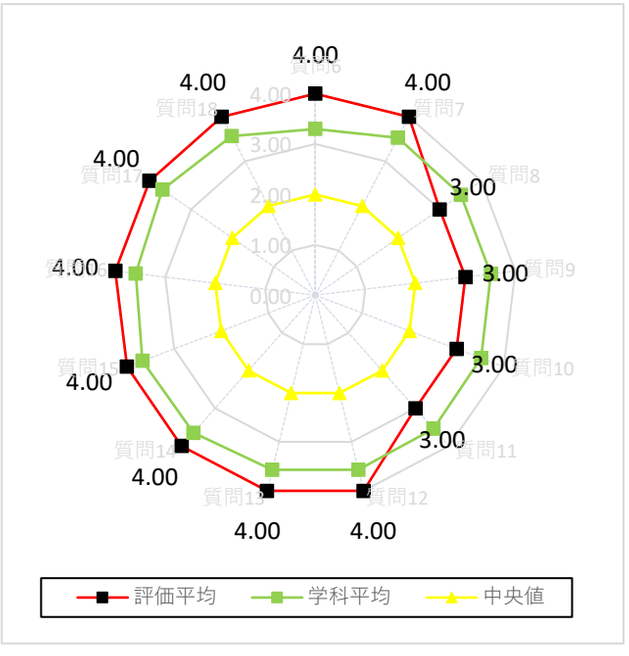
（３）次年度に向けての取り組み

「学生自身の授業参加態度について」の評価を上げるためには、予習・復習の促しと課題を提供することで改善していきたい。
テキストを使用していることから、一部分を学生に読んでもらうことや、学生への問いかけなど学生の参画機会を増やすことを意識したい。
また、授業毎にミニッツペーパーを導入し、学生の疑問点などに答えるなど、理解度を確認しながら進めていくことにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅰ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

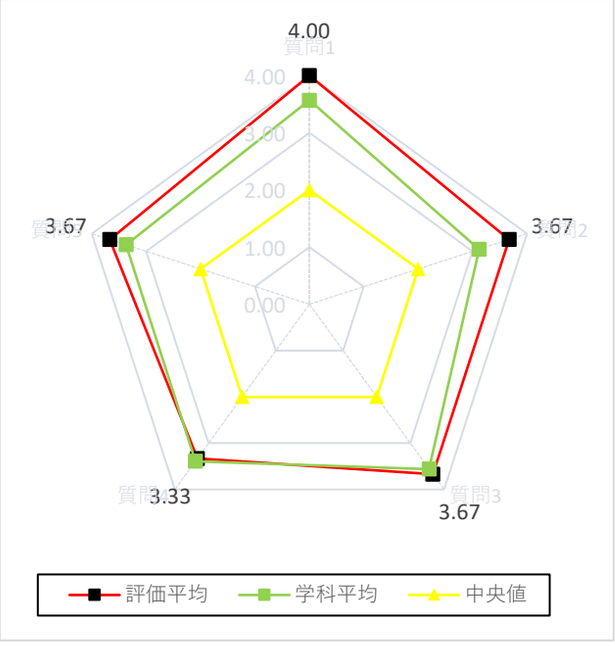
6名中1名から回答を得られた。
結果はあまり参考にならないが、質問8～11が評価3、それ以外は評価4となっている。学生の興味・関心ある論文をまとめて発表する形式を基本として授業を展開している。学生の発表を基に双方向の学修を意識しているが、自分以外の発表となると興味関心のずれが生じて、どうしても授業参加度が低くなっている可能性もある。

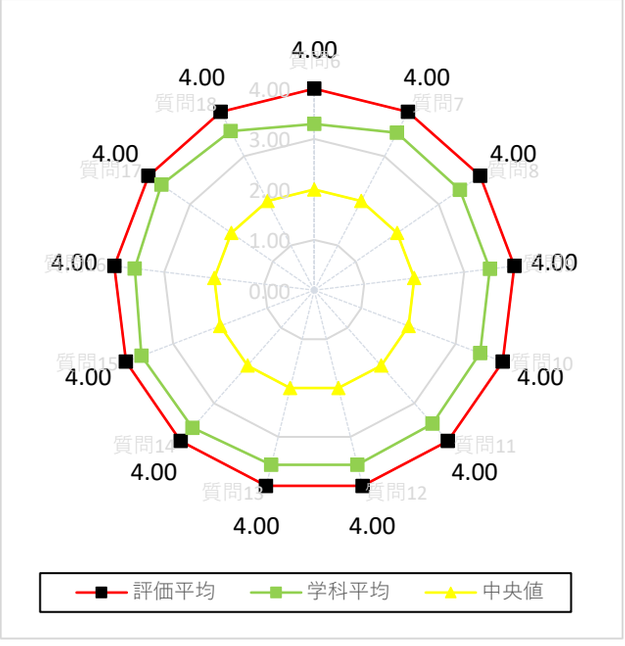
（３）次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、発表者以外の学生にも刺激があるような双方向の質疑応答を中心としたやり取りや学生同士の意見交換機会を増やすなど、学生主体の学びをさらに意識して取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		発展ゼミナールⅠ	13名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

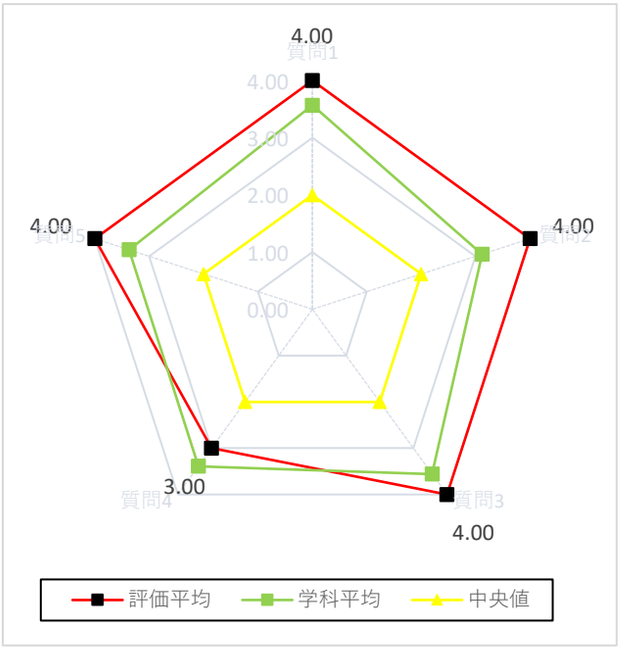
新型コロナウイルスの影響で慣れない遠隔授業を余儀なくされた時期もあり、2年生のゼミ生には迷惑をかけた。2年生のゼミ生の半分は1年生からの持ち上がりであったため、わりと信頼関係が築けていたことから、コミュニケーション不足ということにはならなかったように思う。後期になって対面授業を実施できるようになってからは、ゼミの交流に積極的に取り組んだ。

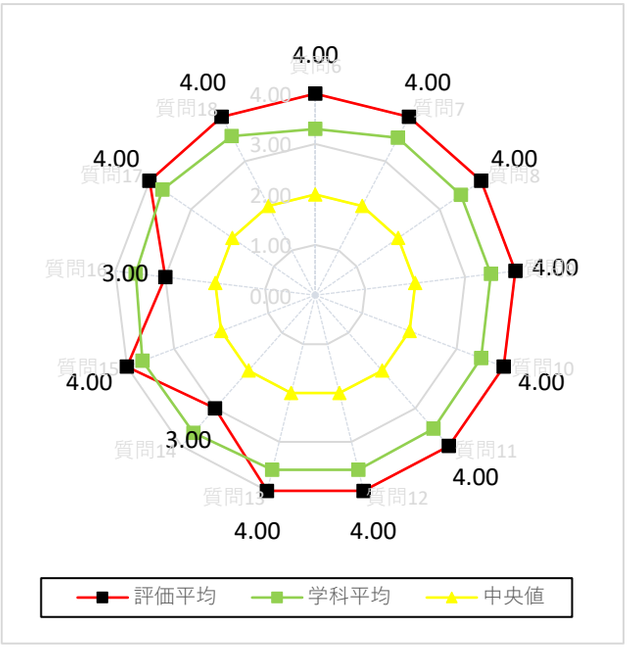
（３）次年度に向けての取り組み

2年生のゼミを持たないが、これまでの経験から他の先生たちにアドバイスできるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ（含卒業研究）	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

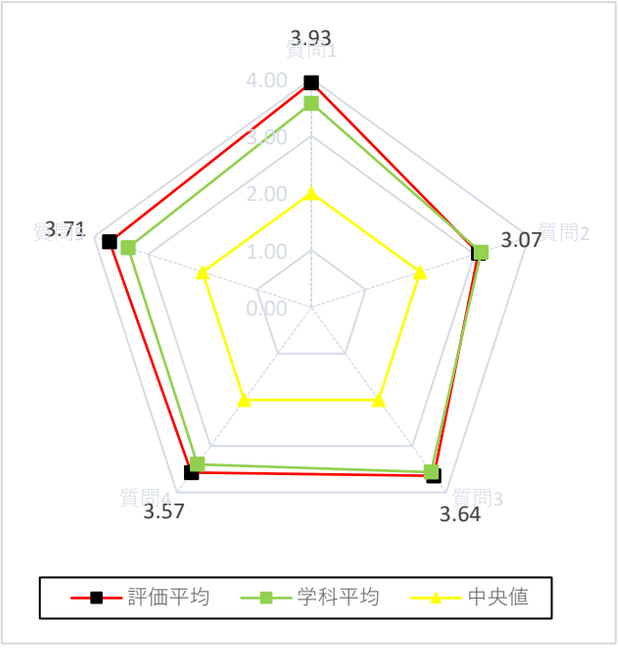
アンケート回答学生が1名のため全体的な分析、評価は難しいものの、良好な結果を得であった。今回は新型コロナ禍の状況で遠隔授業での対応も多く、個別指導が基本となる本教科では、難しい展開でもあった。何とか期日までに、卒業研究の要旨提出や発表ができたことは、良かった。

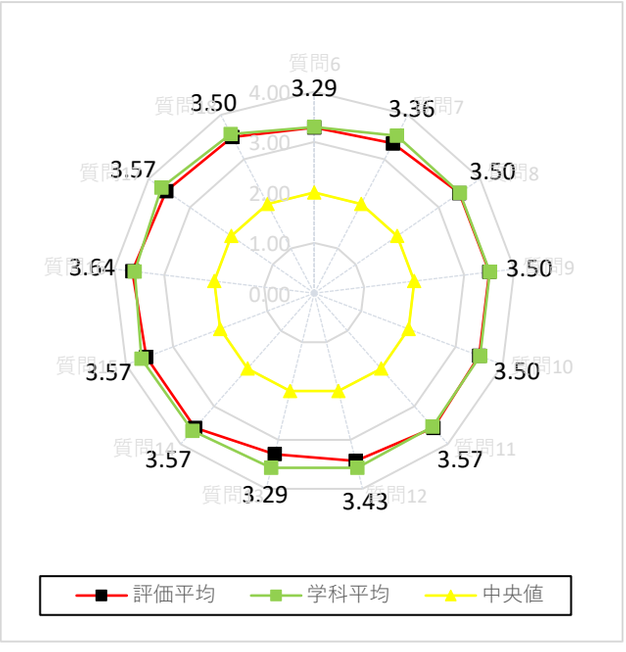
（３）次年度に向けての取り組み

次年度も同様に遠隔や対面の両方を取り入れながら授業を進めなければならないと考えられ、今年度よりも早期の指導で進めたいと考えている。学生にとって、将来に少しでも役立つ研究やまとめ方の指導を取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		地域福祉の理論と方法Ⅰ	64名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

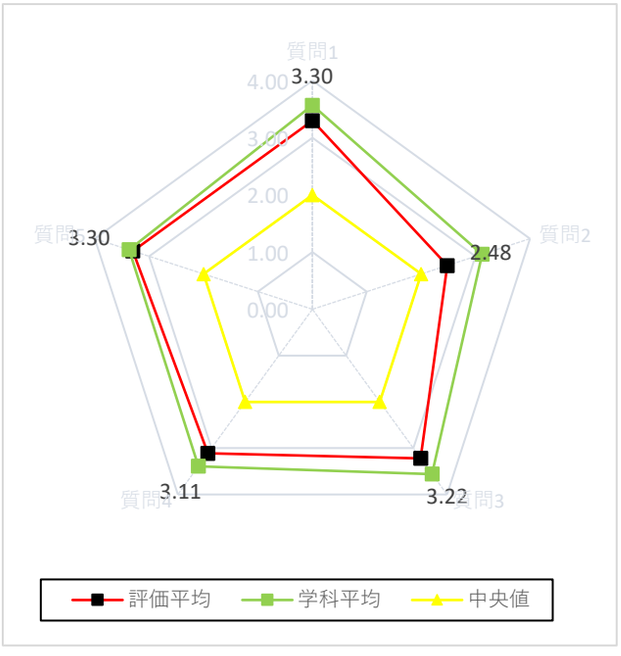
新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、ハイブリット形式を中心にオンライン授業、オンデマンド型授業を取り入れて行った。オンラインで受講する学生にも質問をしながら、教室で受講する学生とも情報を共有する等の工夫も取り入れたため、学科平均値とほぼ同数値の結果となっている。

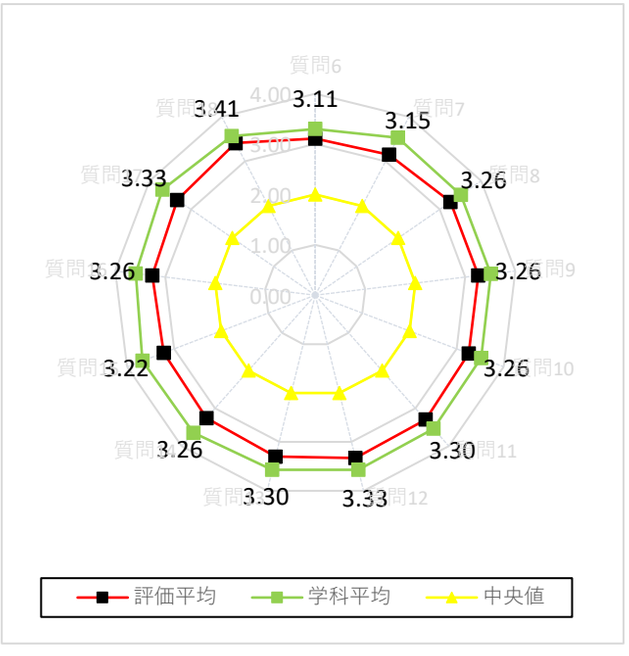
（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているため、今年度の試行した内容をベースに工夫を凝らしたい。また、新しいシステムにも慣れることができる授業を行いながら、双方向的なやり取りを行える講義を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		地域福祉の理論と方法Ⅱ	58名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

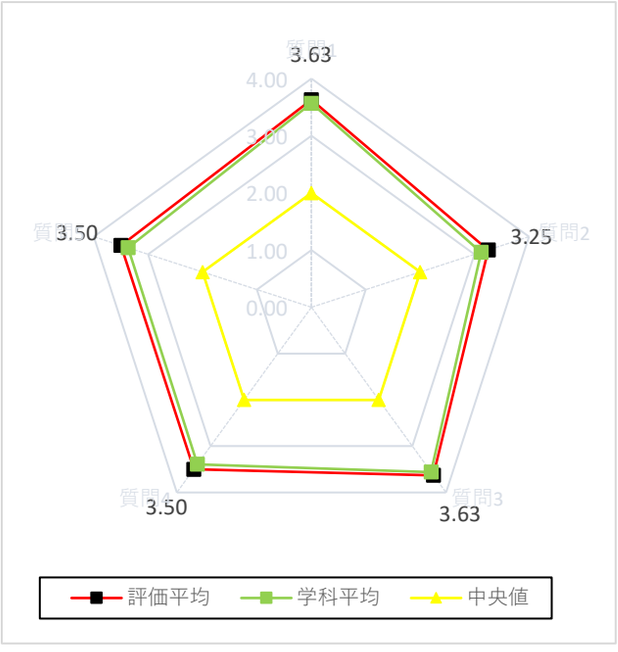
新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、オンライン授業での対応となった。一部、オンデマンド型授業を取り入れたが、学生も教員も不慣れな環境の中の講義となったが、学科平均値とほぼ同数値の結果を得ることができた。

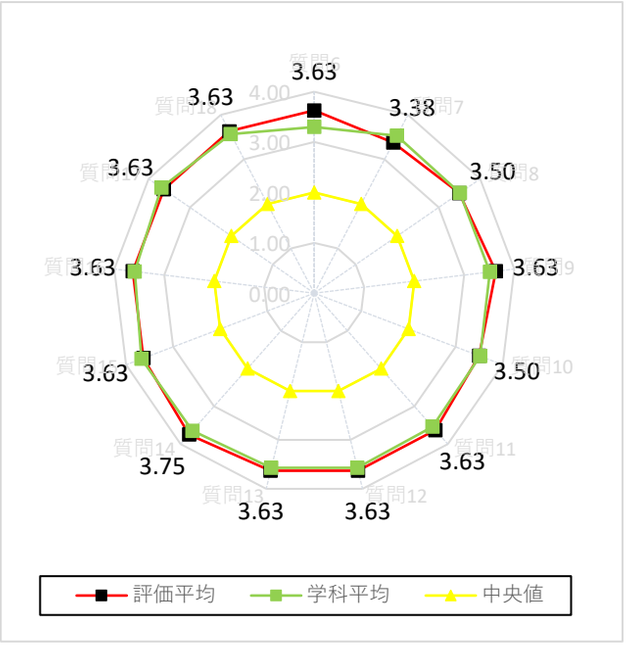
（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているため、今年度の試行した内容をベースに工夫を凝らしたい。また、新しいシステムにも慣れることができる授業を行いながら、双方向的なやり取りを行える講義を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		権利擁護と成年後見制度	49名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

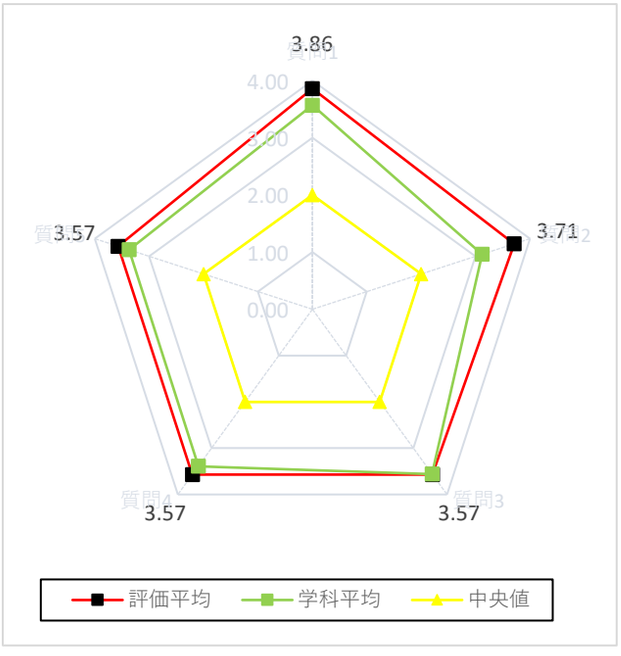
新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、ハイブリット形式を中心にオンライン授業、オンデマンド型授業を取り入れて行った。オンラインで受講する学生にも質問をしながら、教室で受講する学生とも情報を共有する等の工夫も取り入れたため、学科平均値とほぼ同数値の結果となっている。

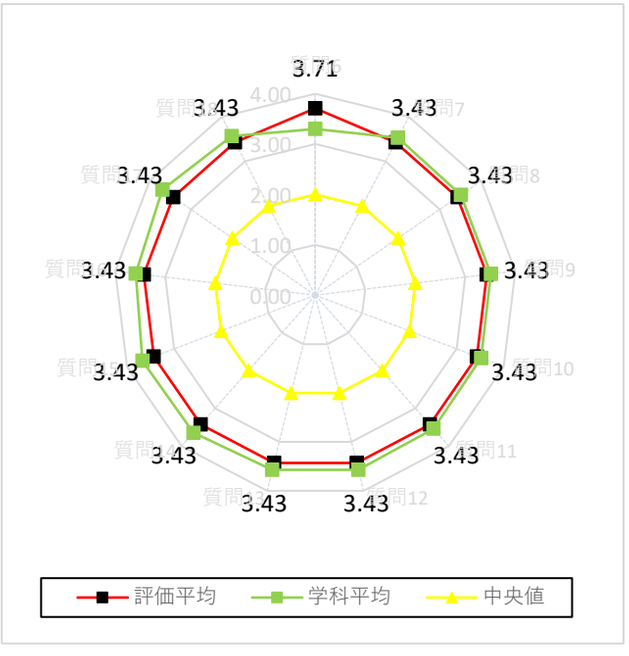
（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているため、今年度の試行した内容をベースに工夫を凝らしたい。また、新しいシステムにも慣れることができる授業を行いながら、双方向的なやり取りを行える講義を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習指導Ⅰ	39名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

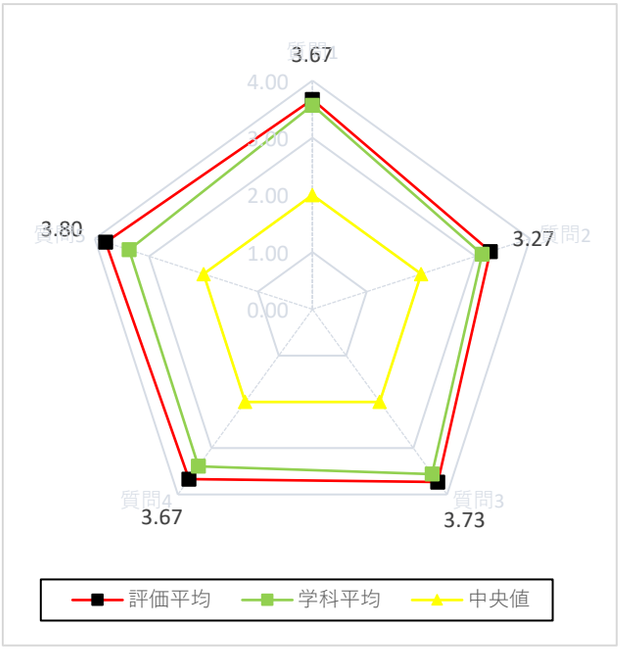
新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、前期はオンライン授業、オンデマンド型授業を中心に、後期は対面授業を中心に行った。シラバス、ハンドブックに沿った講義を行いながら、学生に適宜確認をし、双方向的なやり取りを行う等の工夫も取り入れたため、学科平均値とほぼ同数値の結果を得ることができた。

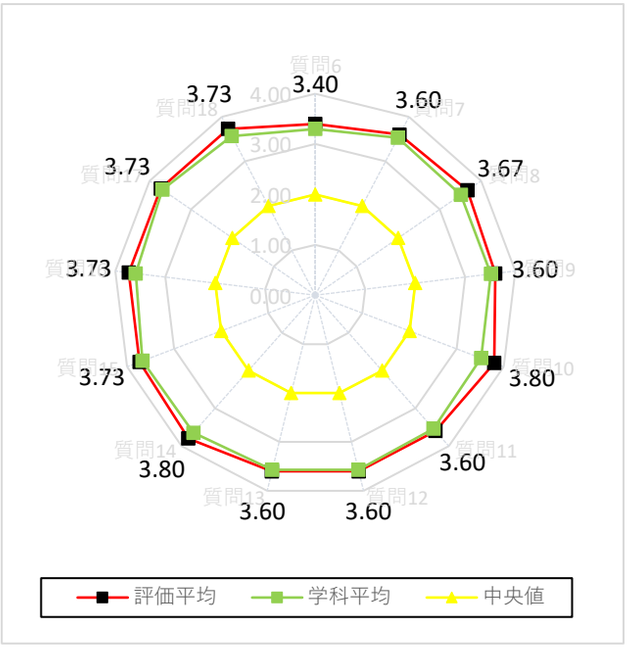
（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているが、実習指導でもあるため、従来通りの対面授業での実施を計画している。しかし、今年度の試行した内容をベースに工夫を凝らしたい。また、新しいシステムにも慣れることができる授業を行いながら、双方向的なやり取りを行える講義を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習指導Ⅱ	48名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

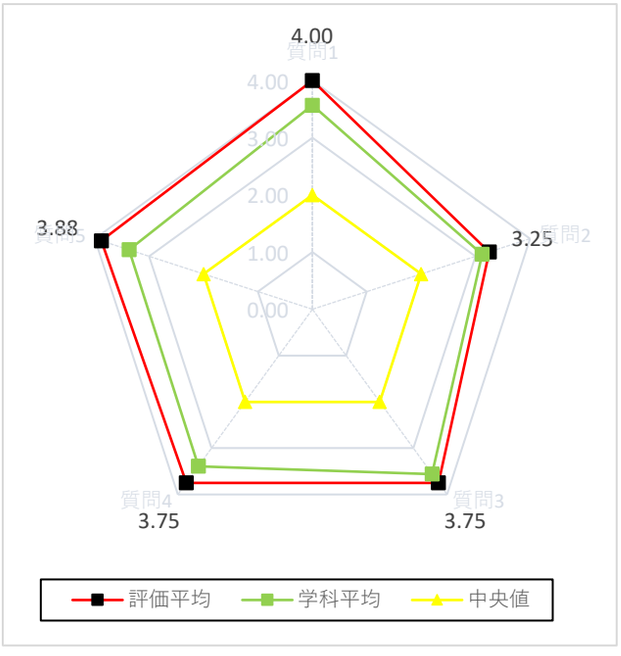
新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、オンライン授業、オンデマンド型授業を中心にに行った。シラバス、ハンドブックに沿った講義を行いながら、学生に適宜確認をし、双方向的なやり取りを行う等の工夫も取り入れたため、学科平均値とほぼ同数値の結果を得ることができた。

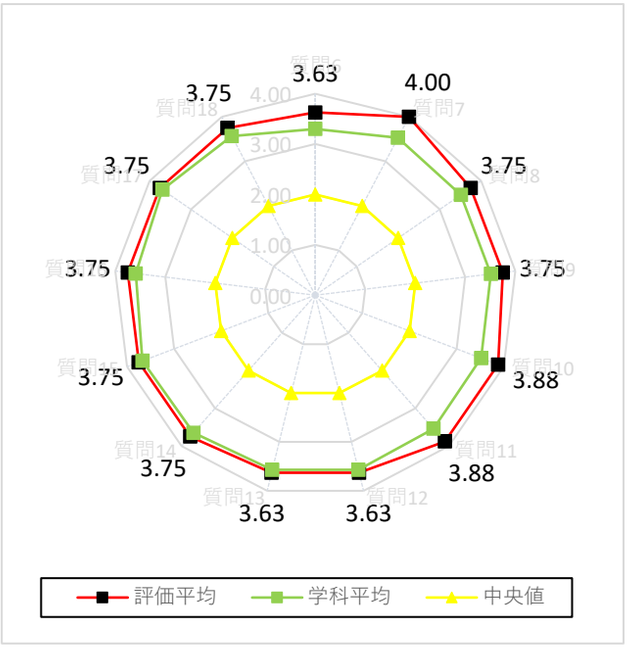
（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているが、実習指導でもあるため、従来通りの対面授業での実施を計画している。しかし、今年度の試行した内容をベースに工夫を凝らしたい。また、新しいシステムにも慣れることができる授業を行いながら、双方向的なやり取りを行える講義を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		社会福祉援助技術実習指導Ⅲ	46名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

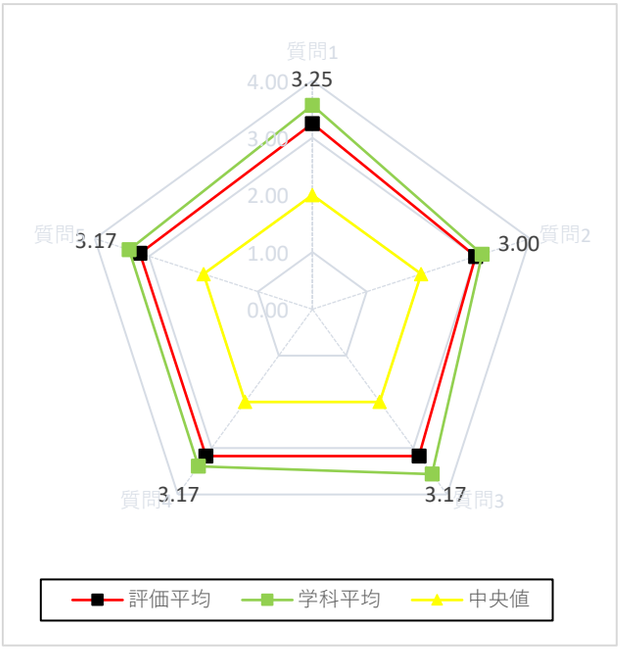
新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、対面授業を中心に行った。シラバス、ハンドブックに沿った講義を行いながら、学生に適宜確認をし、双方向的なやり取りを行う等の工夫も取り入れたため、学科平均値とほぼ同数値の結果を得ることができた。

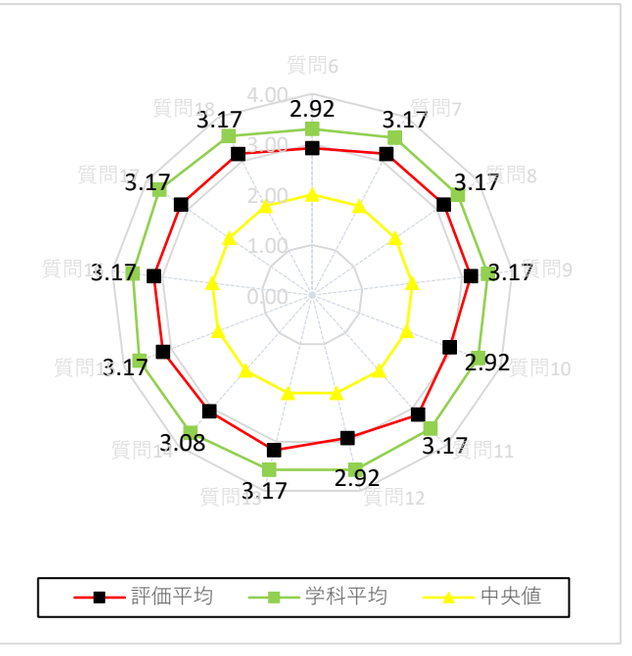
（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているが、実習指導でもあるため、従来通りの対面授業での実施を計画している。しかし、今年度の試行した内容をベースに工夫を凝らしたい。また、新しいシステムにも慣れることができる授業を行いながら、双方向的なやり取りを行える講義を検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ユニバーサルデザイン概論	59名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

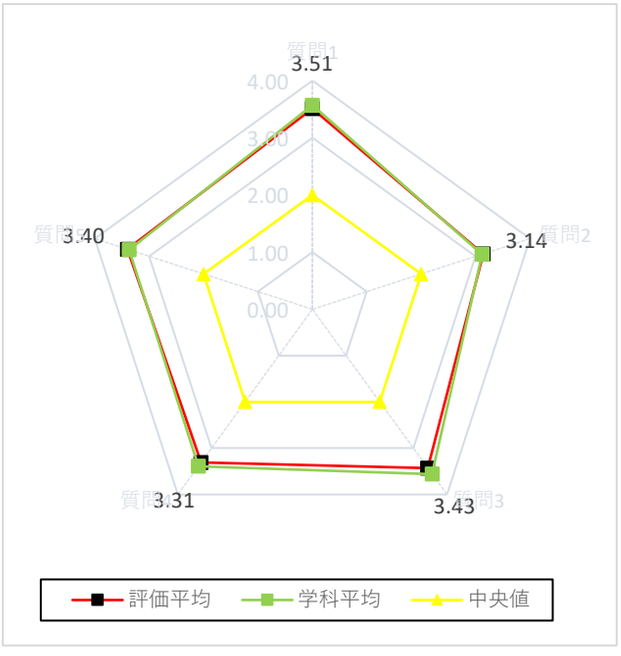
・本年は、コロナ禍で、従来の対面授業ではなく、遠隔授業（ポートフォリオ授業）でしたが、授業には予定通り期日までに授業が開始できました。
　　学生ついては、遠隔授業（ポートフォリオ授業）に慣れ始めてている学生が多い印象でした。
・ポートフォリオ上では、期日厳守が厳格なので回答を受け付けない学生に対しては、メール等で受取を行いました。
・遠隔授業（ポートフォリオ授業）は、出席（回答）がきちんとポートフォリオで管理できるので、良いと思いました。
・人数が多く回答への返答が少々大変な作業でしたが、出欠の管理がしっかりとできるので安心です。
・総合的に、本授業については、遠隔授業（ポートフォリオ授業）で問題無く実施できていました。

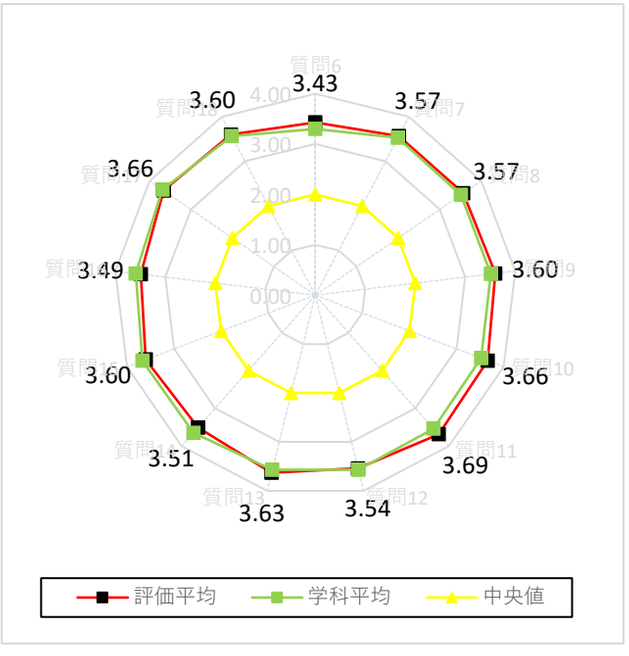
（３）次年度に向けての取り組み

次年度については、今年のコロナ禍が継続されると思います。
ですので、基本は、遠隔授業（ポートフォリオ授業）で準備していきます。
改善点としては、今年度は、初めての遠隔授業（ポートフォリオ授業）でしたので、
事前の準備について、授業資料等早めに見直しを実施して改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		ユニバーサルデザイン各論	44名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

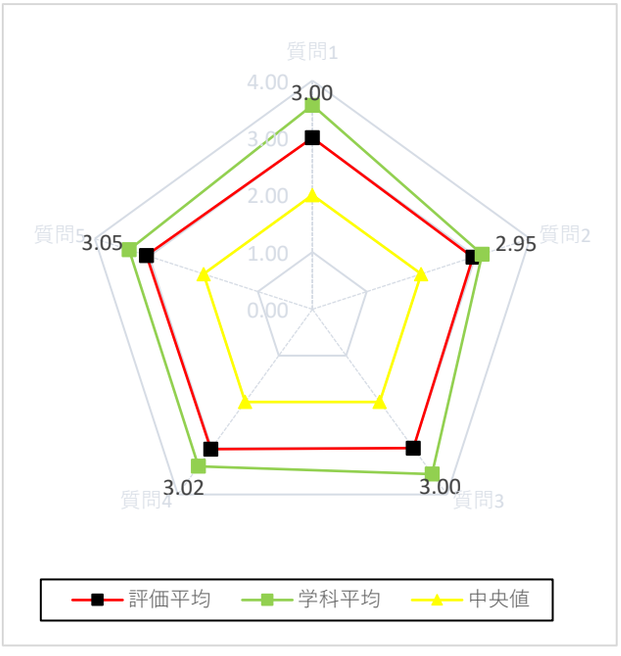
・本年は、コロナ禍で、従来の対面授業ではなく、遠隔授業（ポートフォリオ授業）でした。結果として、対面授業での資料を遠隔授業に切り替える時間が不足してギリギリの資料作成作業になりました。
・授業には予定通り期日までに授業が開始できましたが、学生の反応については、学生側も遠隔授業（ポートフォリオ授業）に戸惑いを感じている学生が多い印象でした。
・ポートフォリオ上では、期日厳守が厳格なので回答を受け付けない学生に対しては、メール等で受取を行いました。
・資料の学生のダウンロードがスムーズにいっているのかが確認できないので不安があったが、提出された回答から内容が把握できたので安心しました。
・遠隔授業（ポートフォリオ授業）は、出席（回答）がきちんとポートフォリオで管理できるので、良いと思いました。
・人数が多く回答への返答が少々大変な作業でした。しかし、出欠の管理がしっかりとできるので安心です。
・総合的に、本授業については、遠隔授業（ポートフォリオ授業）で問題無く実施できていました。

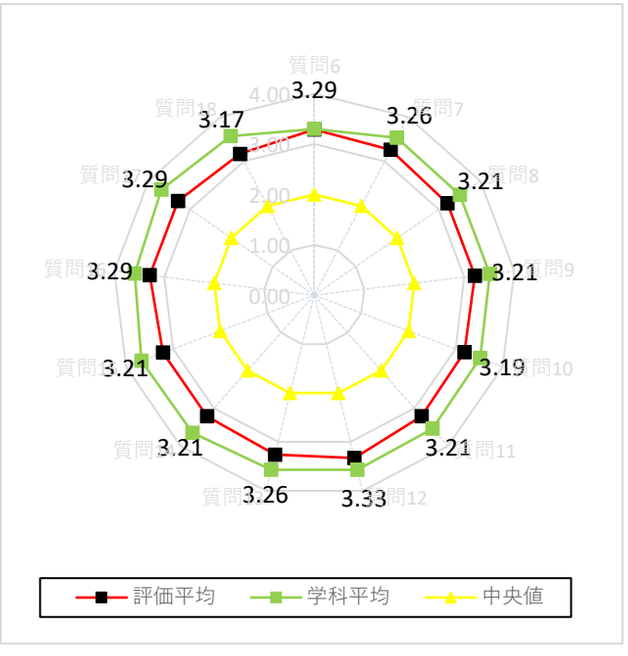
（３）次年度に向けての取り組み

次年度については、今年のコロナ禍が継続されると思いますので、基本は、遠隔授業（ポートフォリオ授業）で準備していきます。改善点としては、今年度は、初めての遠隔授業（ポートフォリオ授業）でしたので、事前の準備は、少し不十分でしたので、授業資料については、早めに見直しを実施して改善していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ社会学	44名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

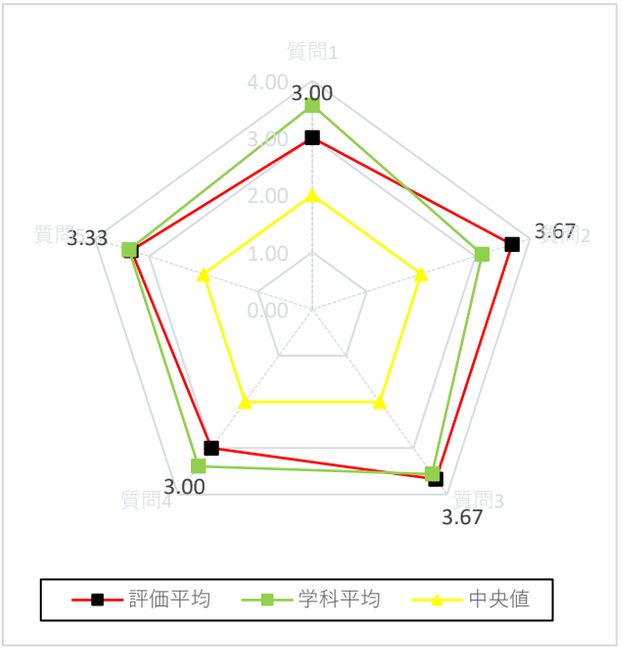
44名中、42名から回答を得た。
　全体的に学科平均を僅かに下回る結果となっている。その中でも、質問14と質問15において値の差がわずかに大きい結果となっていることから、学生とのやり取りを行う工夫が必要となる。

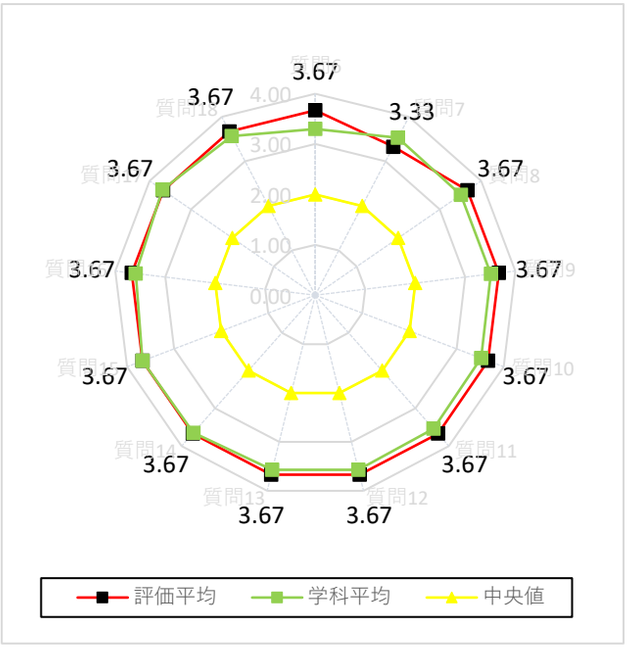
（３）次年度に向けての取り組み

授業中に学への問いかけや学生同士のグループワークを導入し理解度の確認と学びの共有を行える時間を設定するなど、学生参加型の授業を意識し実践する。
また、導入している授業終了後のミニッツペーパーをさらに活用することを意識し、学生の疑問点や理解度を確認しながら進めていくことにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ行政学	50名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

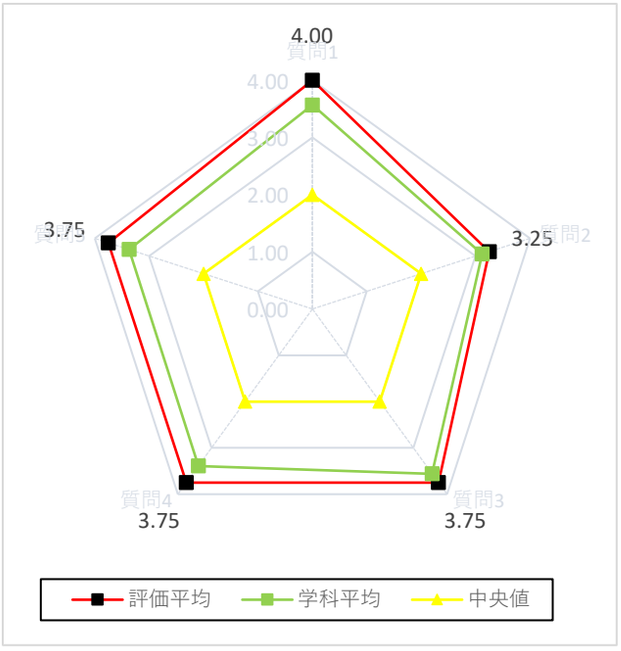
受講生50名中、3名から回答を得た。
少人数の評価であるためあまり参考にはならないが、全ての項目が学科平均値を高く上回っている。現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生自身の評価・満足度がさらに高まるような工夫をしていきたい。

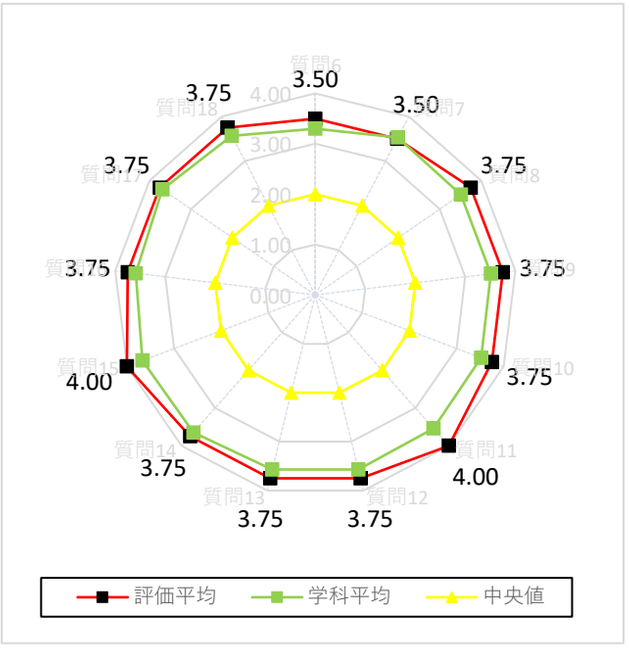
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、学生への問いかけや学生同士のグループワークを導入し理解度の確認と学びの共有を行える時間を設定するなど、学生参加型の授業を意識し実践していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教職実践演習（中・高）	21名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

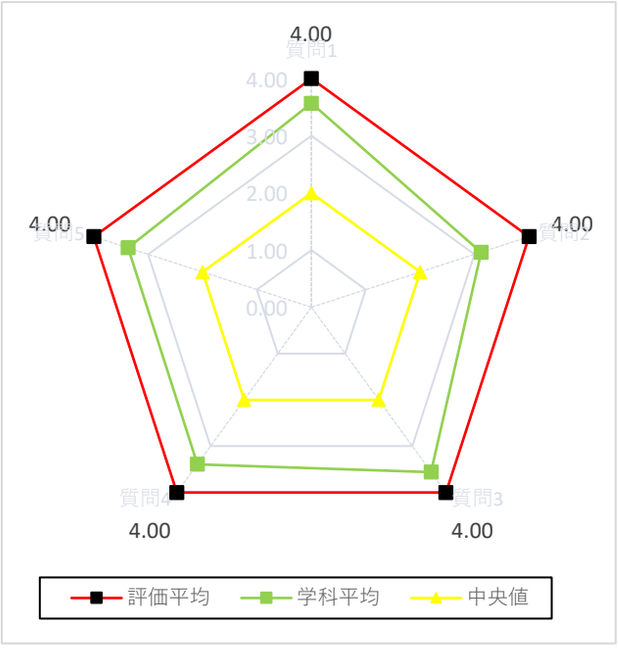
教職課程の総まとめの授業であることから、4年生で比較的まじめな学生たちが受講しているという事情もあり、本授業の評価は例年学科平均よりも高めである。教職課程の授業の中でも遠隔授業が余儀なくされる中、ほとんどの授業を対面授業で実施したことや、授業の性質上学生たちとのコミュニケーションを図りながら授業運営していったことから、とくに今年度は授業評価がよかったように考えられる。

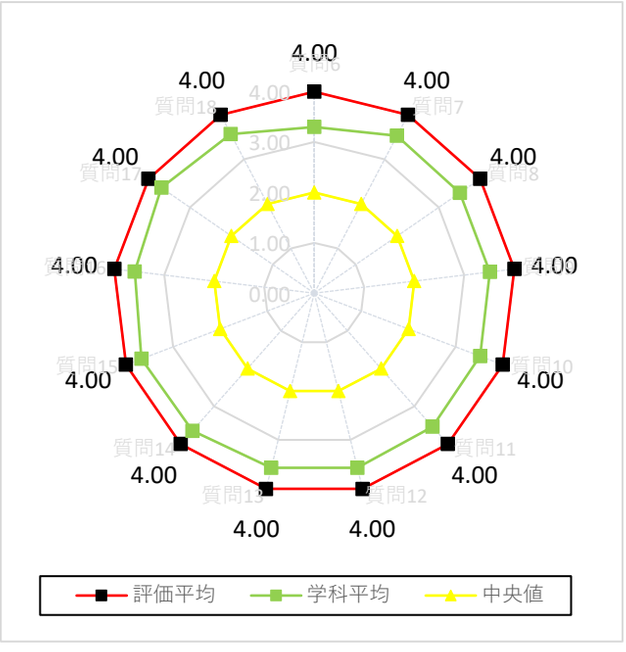
（３）次年度に向けての取り組み

教職課程の総まとめの授業であるという性質から、学生たちが教員になるに当たって必要な資質能力を身につけられるように、グループワーク、ディスカッションなど人とのつながりを大切にする授業運営をするように引き続き心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康産業施設等現場実習	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

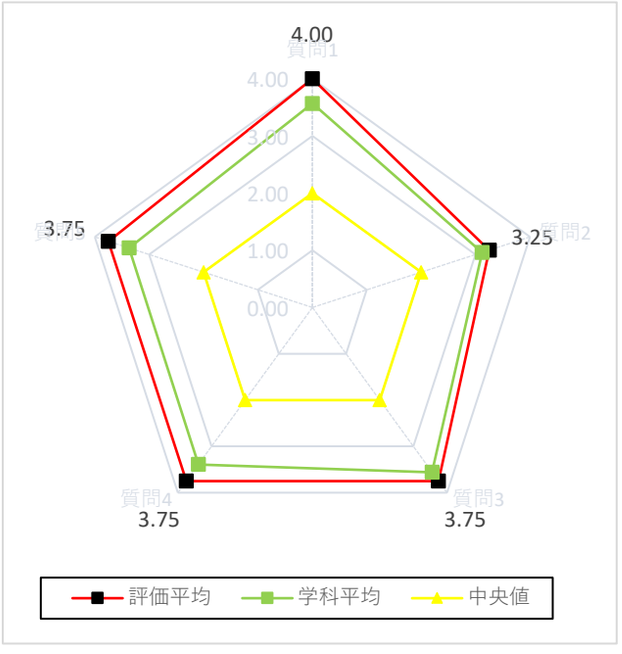
この科目の履修者8名であるものの、前期に現場実習した者は2名である。このアンケート回答者もこの2名で、すべての項目に4評価であったことからたいへん良好な結果と考える。学外の実習で、通常の大学内の授業で得られない経験をしたことで、満足したとと同時に将来の就職に活かせる内容であったものと思われる。

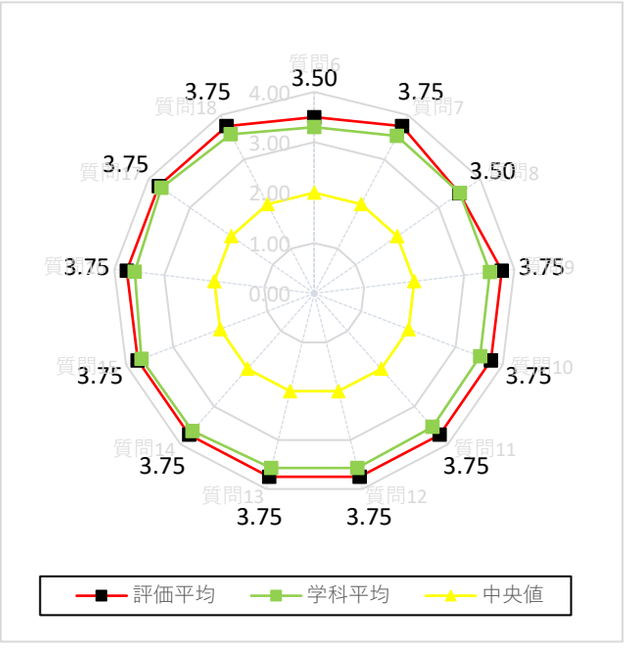
（３）次年度に向けての取り組み

今年度の後期にも3名の実習生が予定されているため、それを合わせて次年度の具体的な取り組みを考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		教育実習事前事後指導	21名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

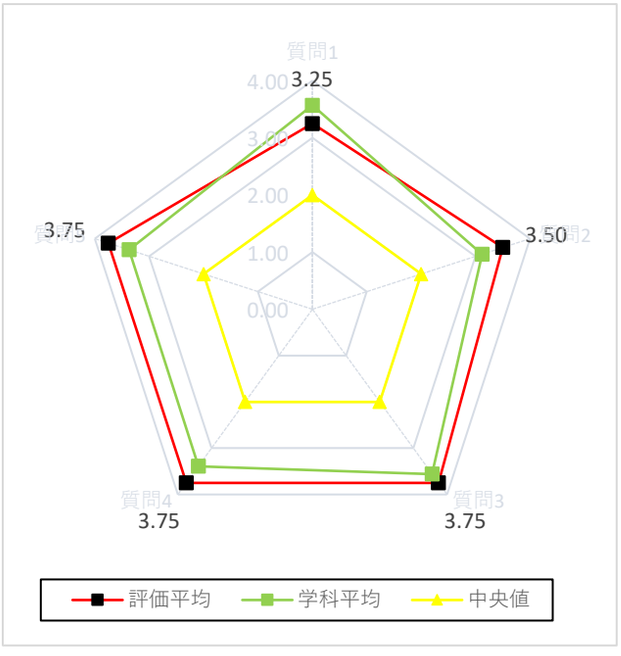
おおむね良い評価であるとみられるものの、新型コロナウイルスの影響で事前事後指導も遠隔授業の導入が余儀なくされたり、教育実習の日程自体の変更により授業計画が変更されたりと学生たちに多大な心配と苦労をかけた。学生たちに実習の心構えを身につけさせ、安心して実習に取り組んでもらえるような環境を整えられなかったことに関して反省している。

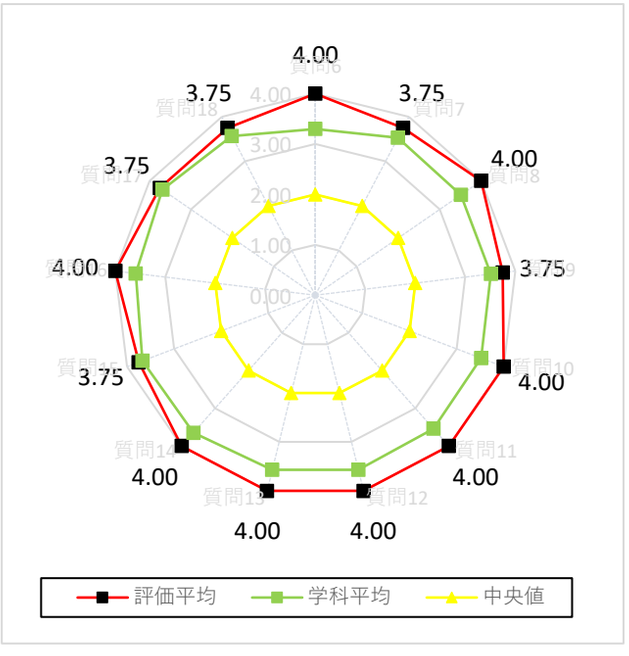
（３）次年度に向けての取り組み

事前事後指導は対面での指導を中心として、学生たちに厳しく実習に向かう姿勢について指導するとともに、実習に対する不安を払しょくできるような安心感と自信を身につけさせられるような授業運営を心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習Ⅱ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

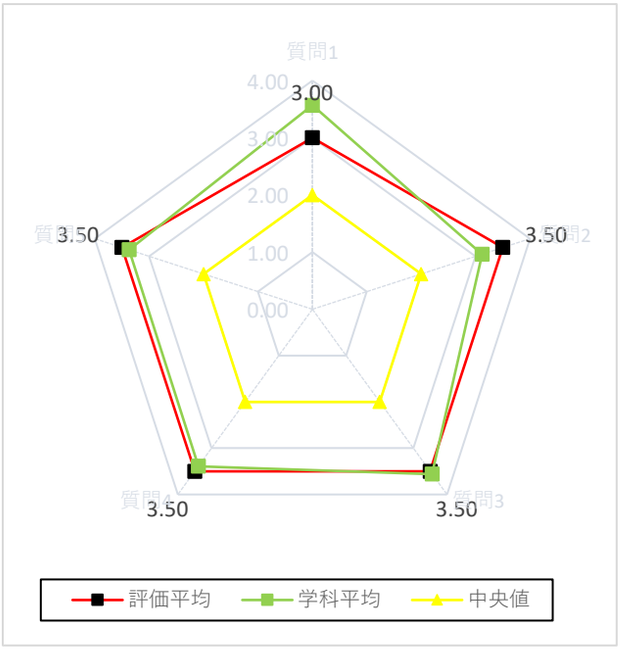
履修者5名のうちの4名の回答であった。各項目で一部3評価があるものの、ほとんどの項目で4評価の結果が得られた。その結果から質問18では、3.75と高い評価であったことから、良好な状況と考えられる。

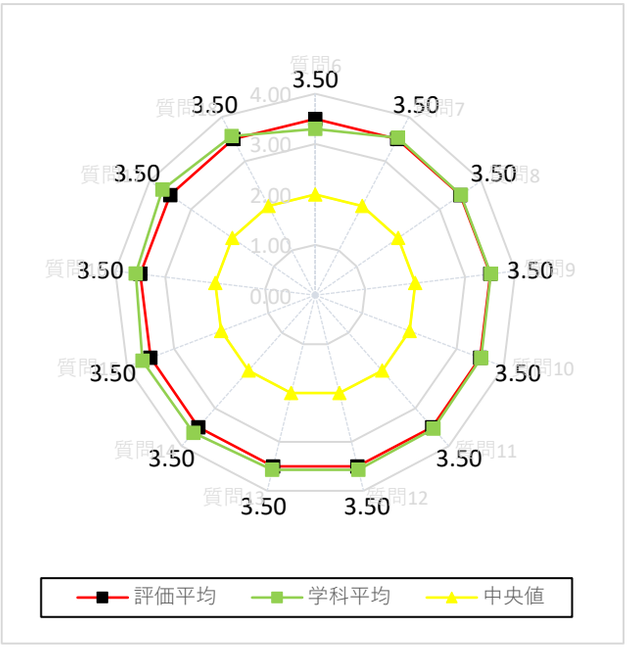
（３）次年度に向けての取り組み

資格試験対策の授業内容であるため、自己学習を支援するものでもあり、個々の学習方法や理解度に合わせた進め方が難しく、今後もこの点について検討してみたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習14（バレーボール）	48名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

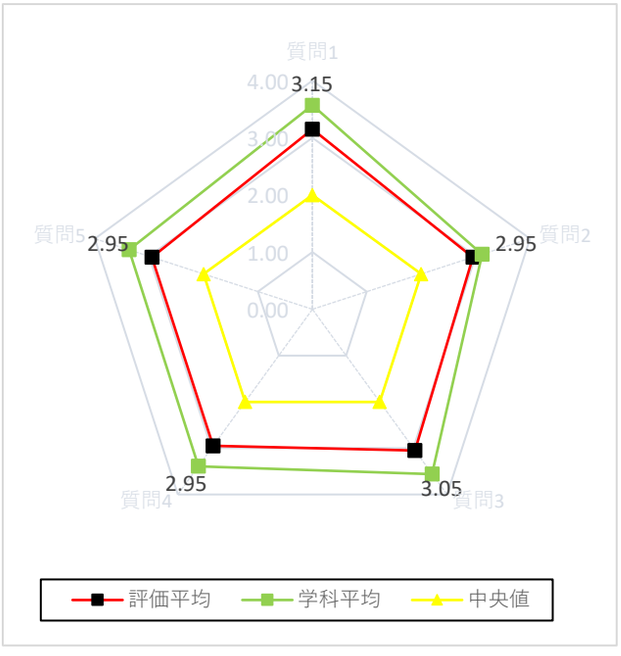
コロナ感染拡大禍を含め、対面の実技実習と遠隔資料課題による回収を並行した授業となり学生の負担もあったと思われる。
その状況下での授業参加状況も比較的良好であり、参加態度に対する学生の自己評価も良好であったので良かったと思う。
実習生も真面目に取り組んでもらえて良かった。
学生の授業効果を全般にわたり確認することができないコロナ禍ではあったが、１１月末から１２月にかけての技能習得や指導法理論に対する
理解度と実践面での変化を把握できたので、学習効果が上がっていたと思われる。
学生の実習満足度の面から希望するのはバレーボールコート２面であるため、受講生を３０名程度にしていただきゲーム実践時間の確保が可能
となることが考えられる。

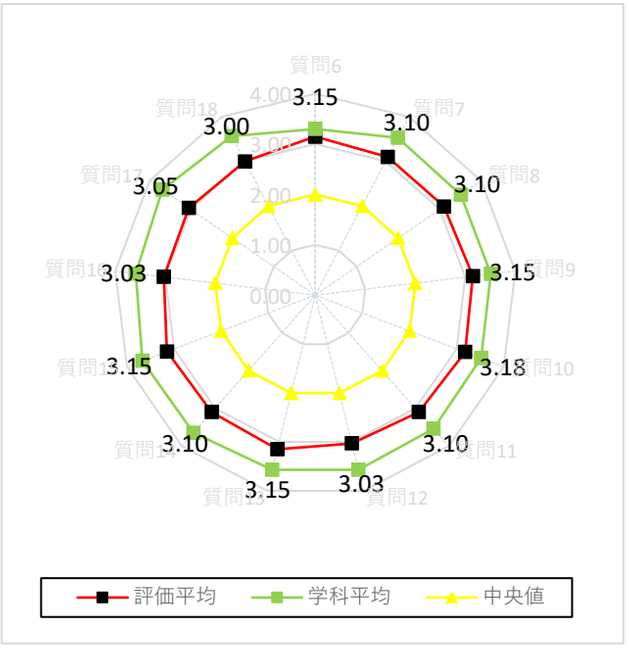
（３）次年度に向けての取り組み

授業効率を高める努力をしていきたい。
用具庫の整理・用具の管理に注意を広げ促すよう心がけたい。
できれば大きな笛の音や声を出さないで、講義内容が伝わるよう工夫したい。
受講生に体育館での更衣や飲み食いを慎むように理解を促したい。（給水のための水飲み等を除いて）

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動処方	41名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

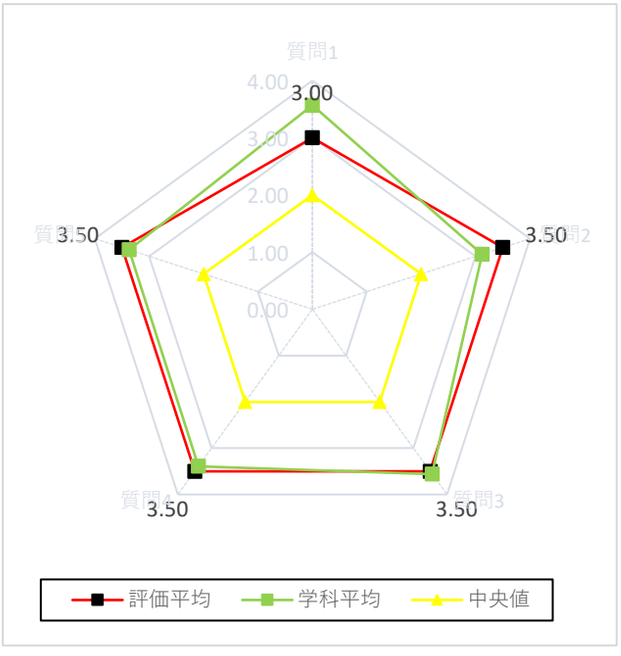
学生のアンケート回答率は99%であった。すべての質問において学科平均程度の結果であった。
急に遠隔授業をすることになったが、事前に資料をまとめて配布することができたため、学生も遠隔授業にも取り組みやすかったと思う。
遠隔授業の方法としてオンデマンド配信を採用したが、前期は音声付き録画にできなかったことから、学生には不便をかけたことと思う。
ポートフォリオのやり取りで、質問や感想を受けつけ、個別に回答したり、必要に応じて全体へフィードバックを行った。
時々対面授業を行い測定演習をとりいれ、学生の興味を喚起することができた。自由記載では「実際に計測を行えて自分のためになった。」との声もあった。
定期試験は対面で行い、全体の解説を行った。定期試験の平均点は昨年の対面授業の学生とほとんど変わらなかった

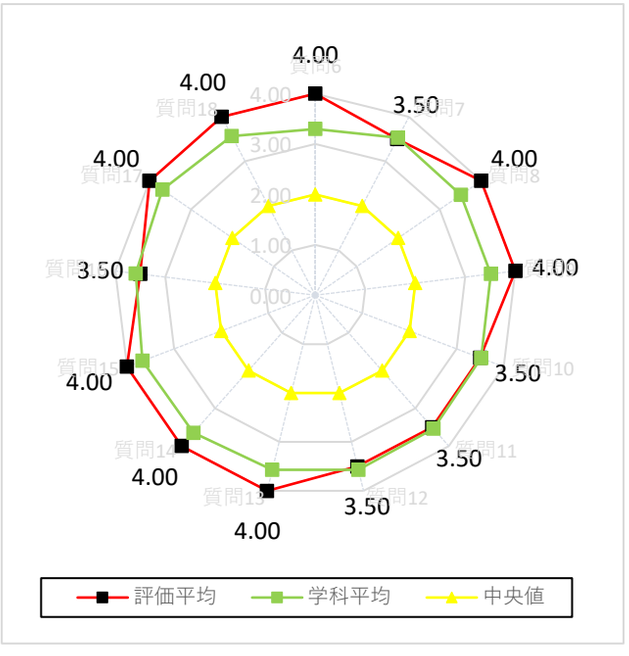
（３）次年度に向けての取り組み

R3年度前期においても、遠隔授業を採用することとなり、音声付きのオンデマンド配信を行う。
学習ノートには、練習問題を追加し、さらに使いやすくなるよう改良した。
演習については、遠隔授業の中でも実施できるよう計画する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動負荷試験	15名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

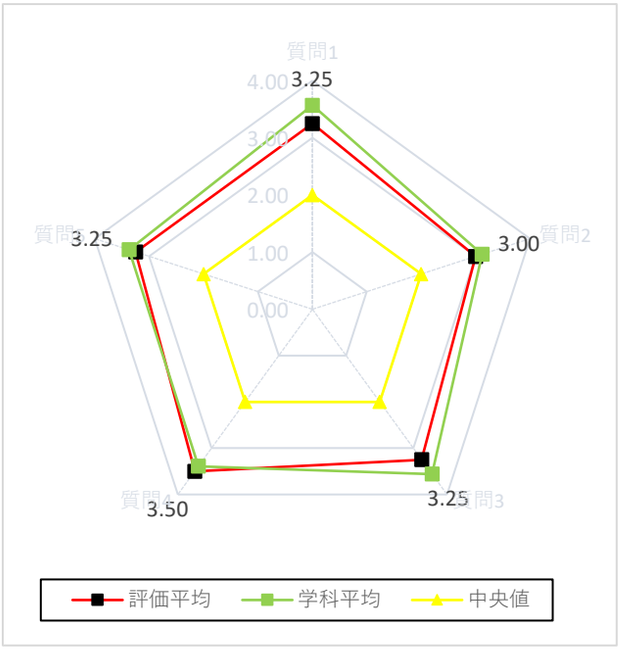
ほとんどの質問が学科平均を上回ったが、学生のアンケート回答率は13%と低いため、回答した学生によるバイアスが大きい可能性がある。
回答率が低かった理由は不明である。
講義は遠隔で行い、3種類の運動負荷試験実習はライフスタイル医科学研究所または大学のトレーニングセンターで実施した。
感染拡大の影響により、日程変更を余儀なくされたが、なんとか終了することができた。
運動負荷試験実習を通じて、学生相互で役割を交代しながら、様々な測定を体験してもらった。
運動処方についての理解も深まると同時に、より実践的な学習ができたと思われる。
履修者全体で助け合いながら授業に参加する雰囲気が高まっていた。

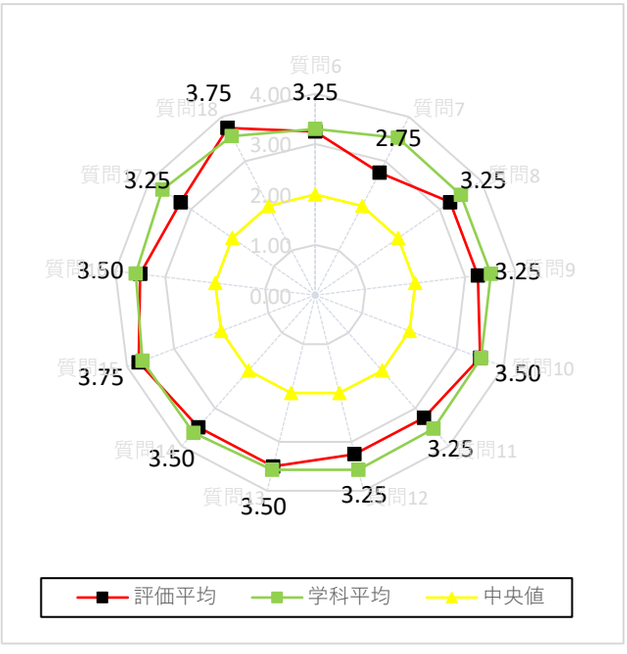
（３）次年度に向けての取り組み

R3年度も、昨年同様、遠隔での講義、対面での実習を組み合わせて実施する予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		測定評価	44名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

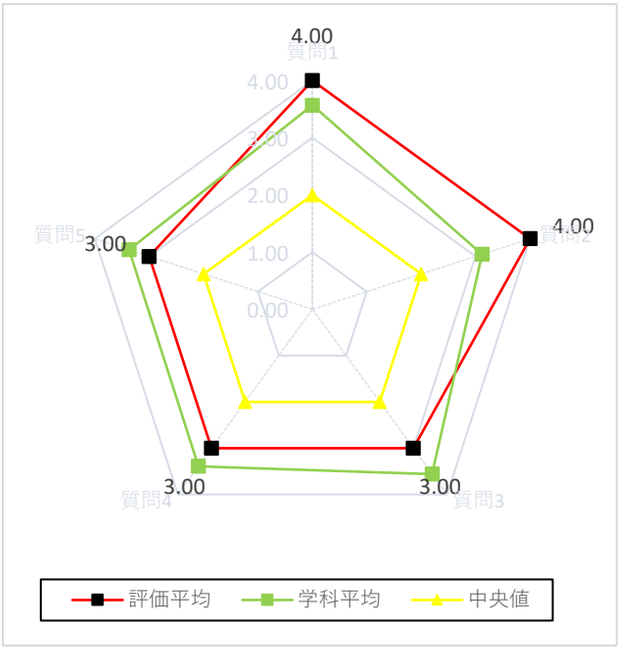
まず、アンケート回答があった学生は44名中4名からであった。質問7以外はすべて3.0以上の評価で質問18の総合評価も3.75であったことから、回答者が少ないながらも、まずまず良好な結果が得られた。今回は新型コロナ禍の状況でありながら、何とか体力、体格測定の演習が対面できたことは、例年の評価から察すると高評価につながったものと考える。

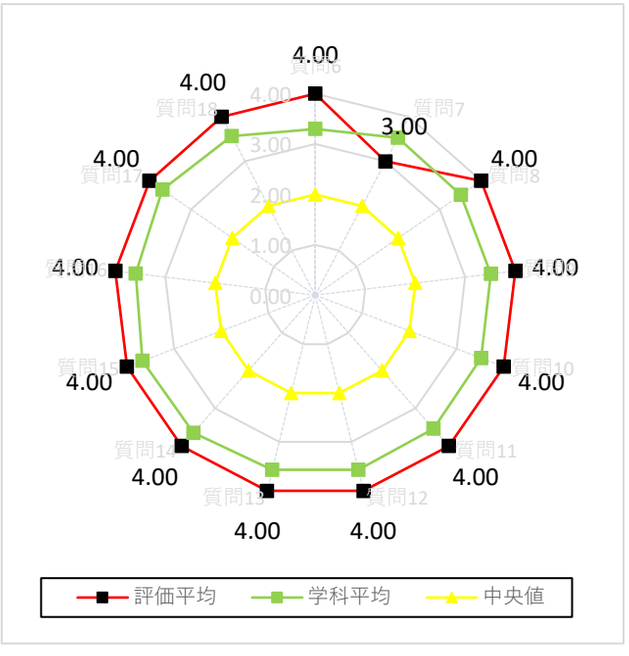
（３）次年度に向けての取り組み

この教科は資格取得にも関連するため、わかりやすい授業内容とともに実践できる能力が求められる。次年度も対面で演習ができることを望んでいる。次年度も授業改善に努め、アンケート回収率をもう少し高められるよう、学生へ案内したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅰ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

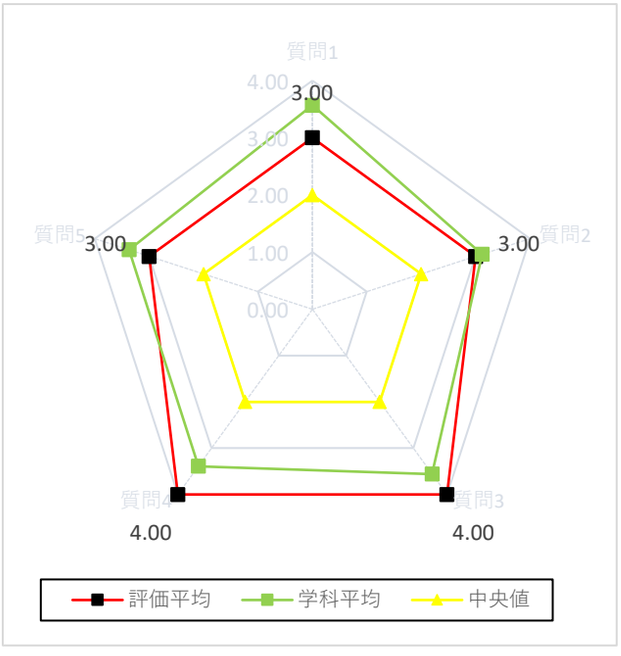
6名中1名から回答を得られた。
結果はあまり参考にならないが、質問7以外は全て満点の評価となっている。全体授業としてオリエンテーションを行い、授業の目的・目標は伝えているが、学生目線での理解に至る無いようになっているか再考する必要がある。

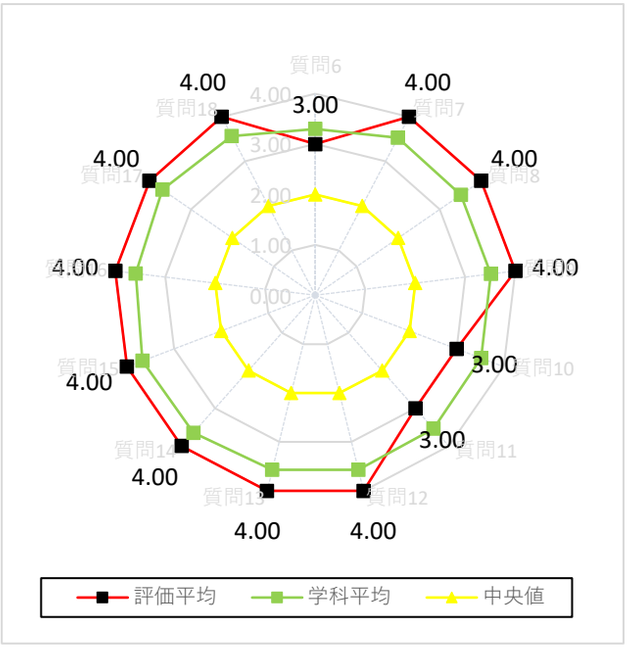
（３）次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学外での体験型学習の特長を生かし、学生が「楽しむ」だけではなく、指導・支援の難しさを体験しそれを乗り越えた実感を得られる発表の機会を増やすなどのさらなる工夫に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	5名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

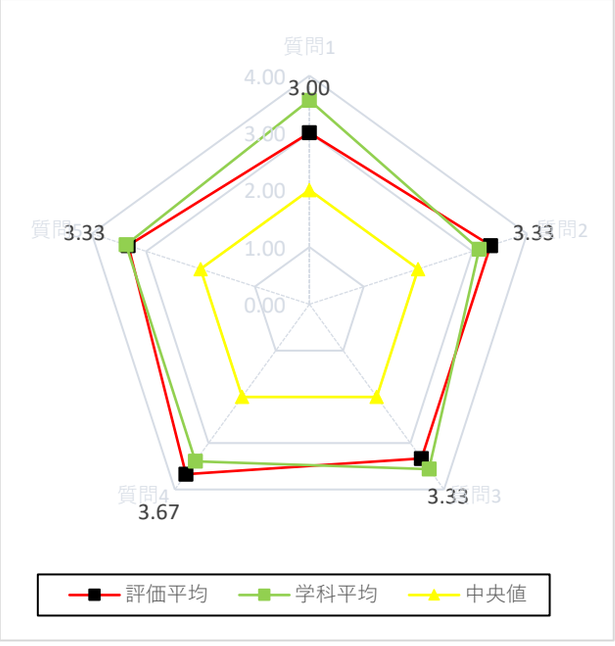
6名中1名から回答を得られた。
結果はあまり参考にならないが、質問6、10、11以外は全て満点の評価となっている。質問6については、全体授業としてオリエンテーションを行い、授業の目的・目標は伝えているが、学生目線での理解に至るようになっているか再考する必要がある。質問10、11では、学生自らが指導案を作成し実践することになるが、その際に役立つ具体的内容の提示が求められていると解釈する必要がある。
学生の満足度がさらに高まるように、例えば、十分な準備時間確保と計画段階での助言をこれまで以上に意識して行うことが重要になってくると思われる。

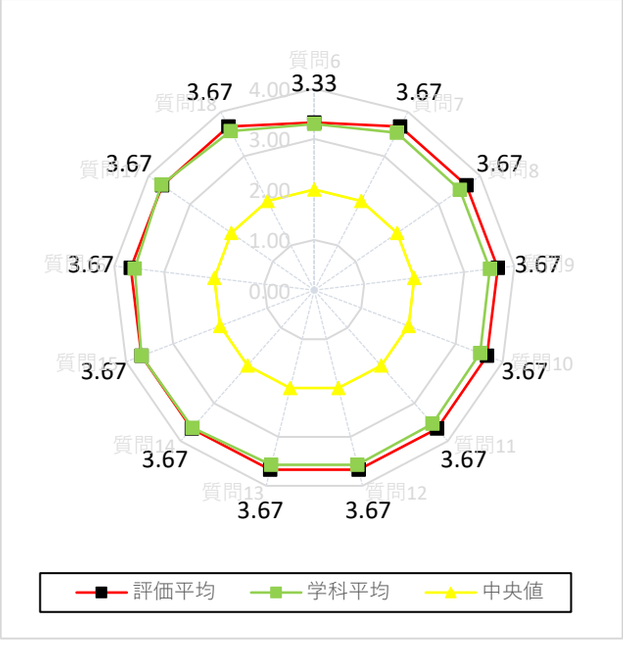
（３）次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生の参画度が高い体験型学習型授業であることから、学生の満足度と充実度さらには達成感がさらに高まるように、例えば、十分な準備時間確保と計画段階での助言をこれまで以上に意識して行うことが重要になってくると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援演習	45名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

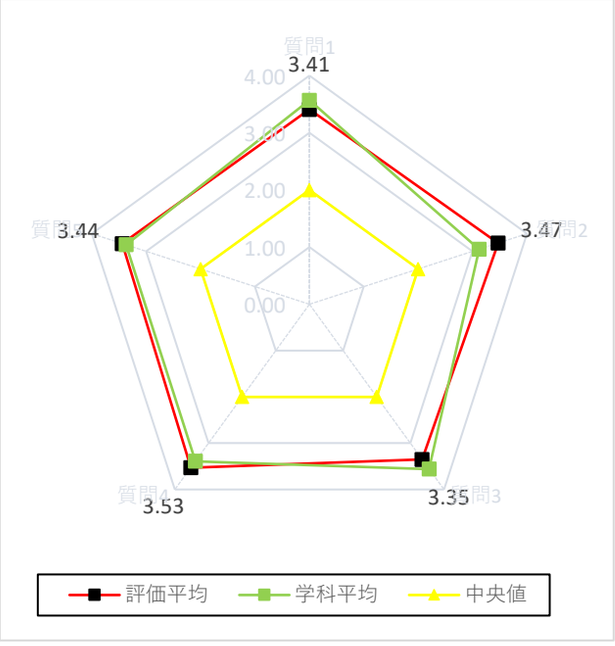
受講生48名中、34名から回答を得た。
全ての項目が学科平均値を高く上回っている。現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生自身の評価・満足度がさらに高まるような工夫をしていきたい。

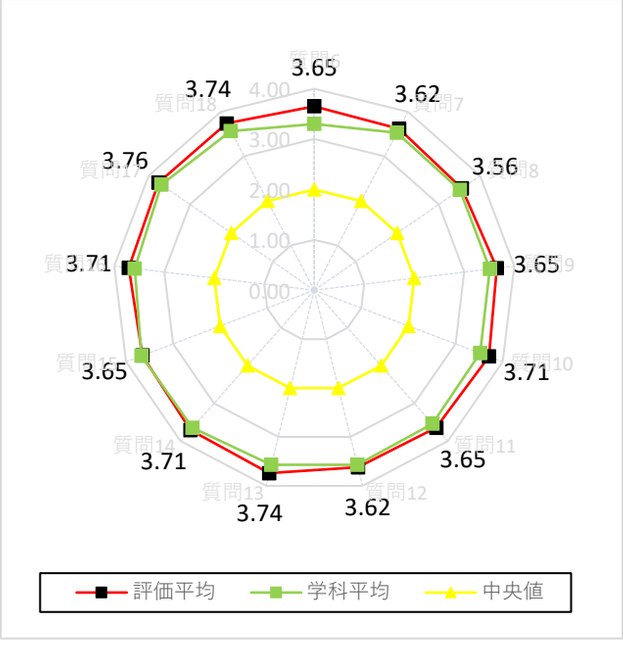
（３）次年度に向けての取り組み

引き続き、学生への問いかけや学生同士のグループワークを導入し理解度の確認と学びの共有を行える時間を設定するなど、学生参加型の授業を意識し実践していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援論	48名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

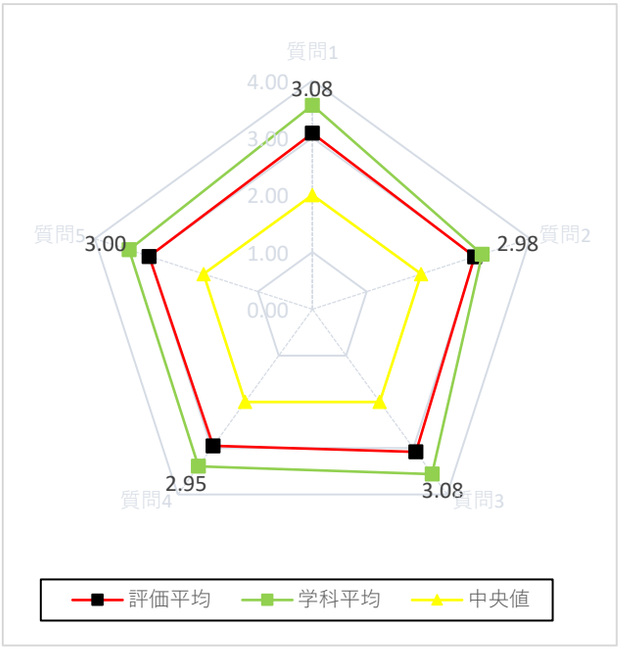
受講生48名中、3名から回答を得た。
少人数の評価であるためあまり参考にはならないが、全ての項目が学科平均値を高く上回っている。現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生自身の評価・満足度がさらに高まるような工夫をしていきたい。

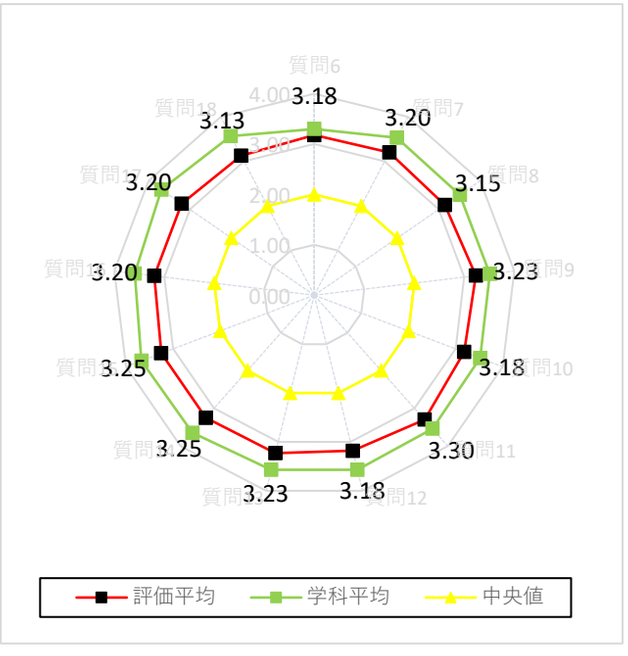
（３）次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、資格取得に繋がる科目であることから、学生が「楽しむ」だけではなく、指導・支援の難しさを体験しそれを乗り越えた実感を得られる発表の機会を増やすなどのさらなる工夫に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		アダプテッド・スポーツ論	43名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

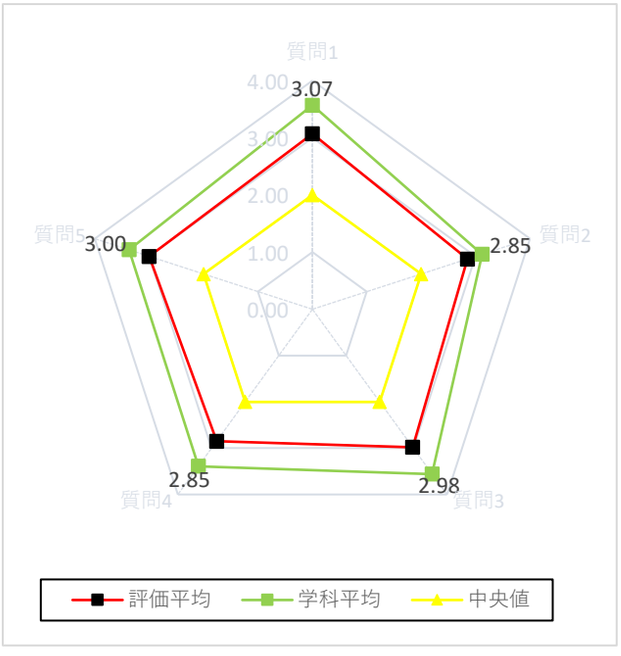
43名中、40名から回答を得た。
　全体的に学科平均を僅かに下回る結果となっている。質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」の値いが高まるように、授業内容にもう一工夫加える必要がある。

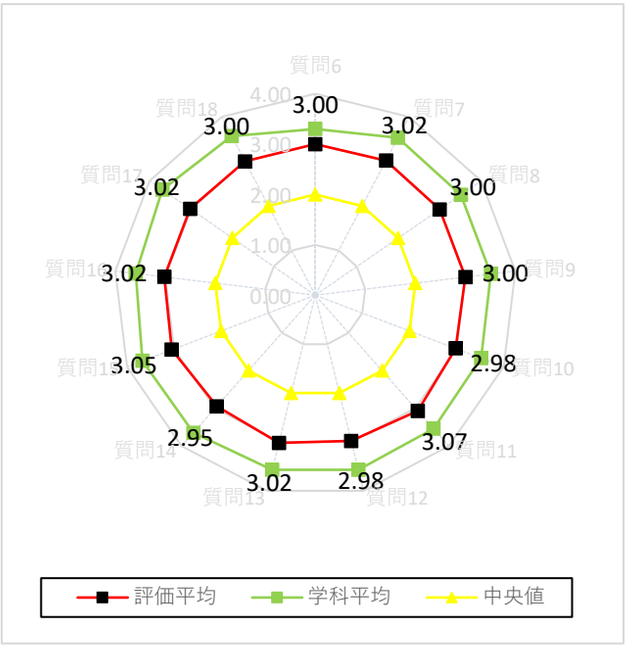
（３）次年度に向けての取り組み

本科目は、2人の非常勤講師にも協力を得ることで障がい者スポーツを通じた全ての人へのスポーツのあり方の理解促進を図っている。
現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、学生同士の意見交換機会を増やすなど、学生主体の学びをさらに意識して取り組んでいきたい。
※学内では資格取得に必要となる養成認定校の指定テキストの解説と障がい者スポーツ種目の知識を増やすためのDVD視聴が主な内容であることから、特にテキストに関する部分では、教員からの単方向授業になっている可能性がある。また、障がい者スポーツ施設の見学として学外授業も展開するなど、体験的な学習内容も含めているが学生の評価につながっていないことから、授業毎にミニッツペーパーを導入し、学生の反応を確認しながら進めていくことにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		リハビリテーション論	47名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

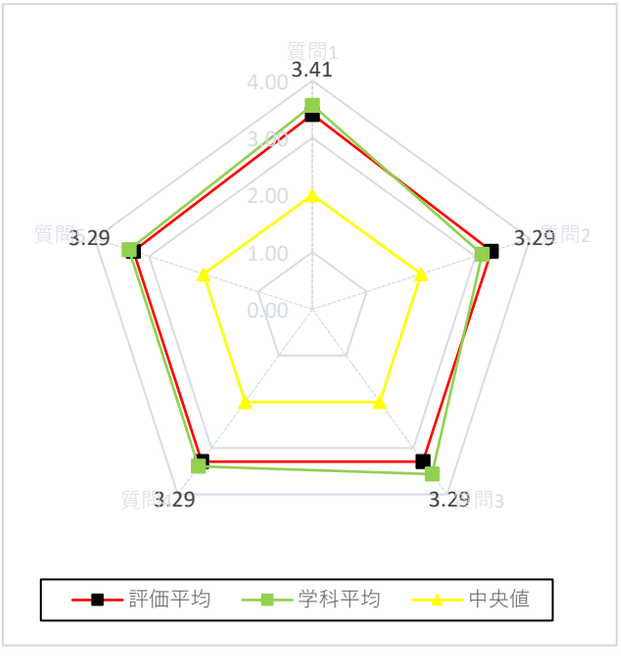
回答率は87%（41/47）であった.
質問1?18の設定に対して，質問19?25に回答がある.
自由記述では，「写真があってわかりやすかった。」「zoomの授業でしたが理解することができたので良かったです。」が各1名認められた.
総合評価（質問18）に対して，「不満･やや不満」の回答者が9名（19%）認められた.

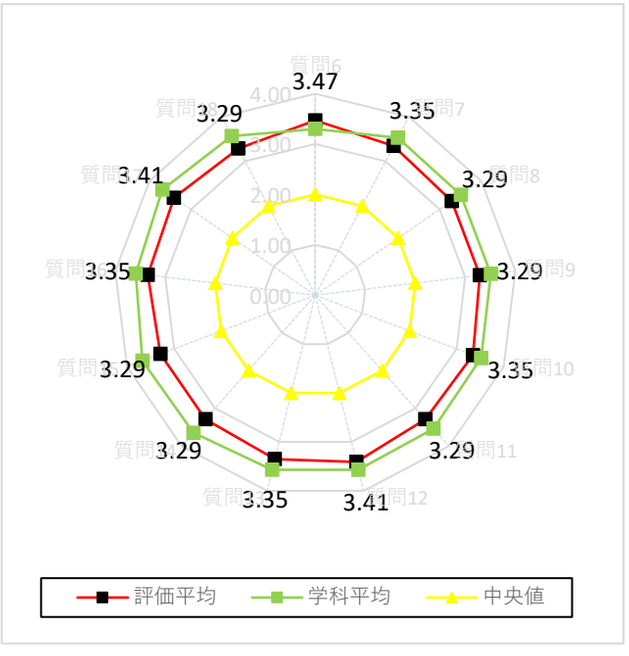
（３）次年度に向けての取り組み

回答率87%は評価できる.
存在しない質問に対する回答が行われている調査にどれだけの信憑性があるのか甚だ疑問である.
次年度の大学方針に従い，対面授業，遠隔授業の準備を進める.

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅲ	19名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

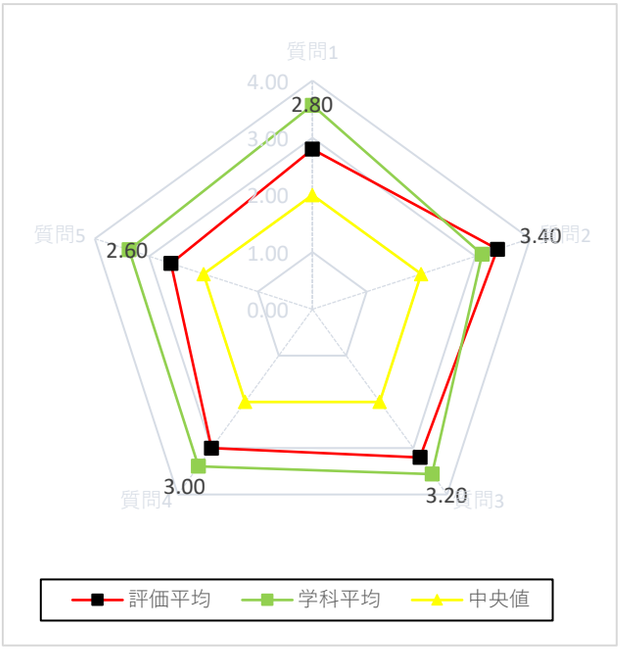
オンライン授業との併用が余儀なくされたため、学生による模擬授業の時間が少なくなったが、その分各種目の特性に触れる時間が確保され、概ね充実した授業展開ができたと感じている。

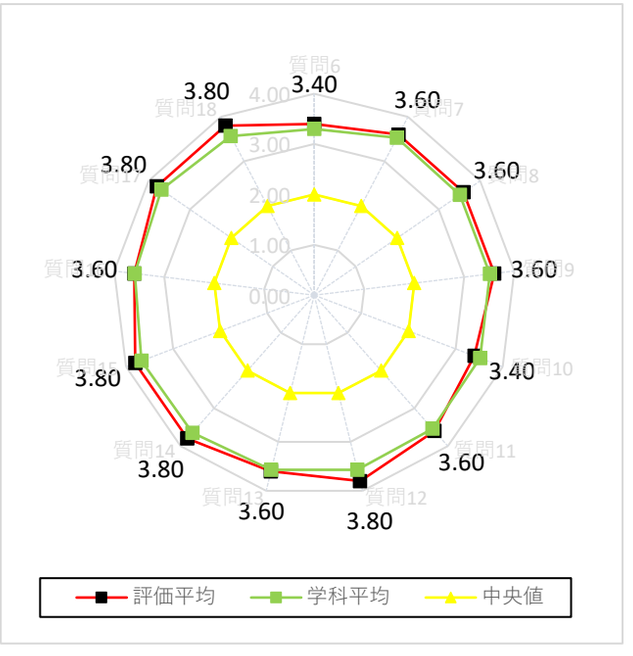
（３）次年度に向けての取り組み

今回のオンライン授業実施を振り返り、保健体育科授業の考え方など掘り下げてのオンライン授業を展開し、対面授業においてそれまでの学びを効果的に繋げることができるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		地域再生・創生論	14名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

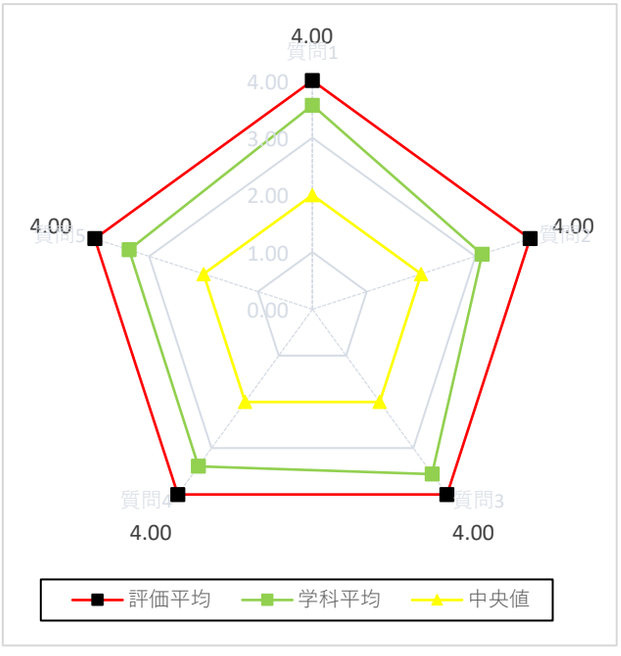
リモート講義であったこともあり、質問1-5により学生の参加度が今一つであったことがうかがえる。
リモート講義ならではの講義参加への工夫がもう少し必要であった。

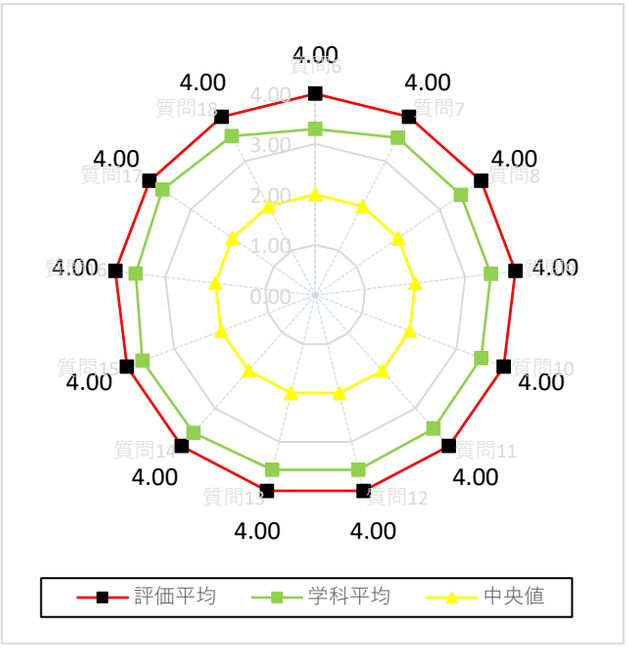
（３）次年度に向けての取り組み

次年度がないのが残念である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		健康福祉海外演習	4名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

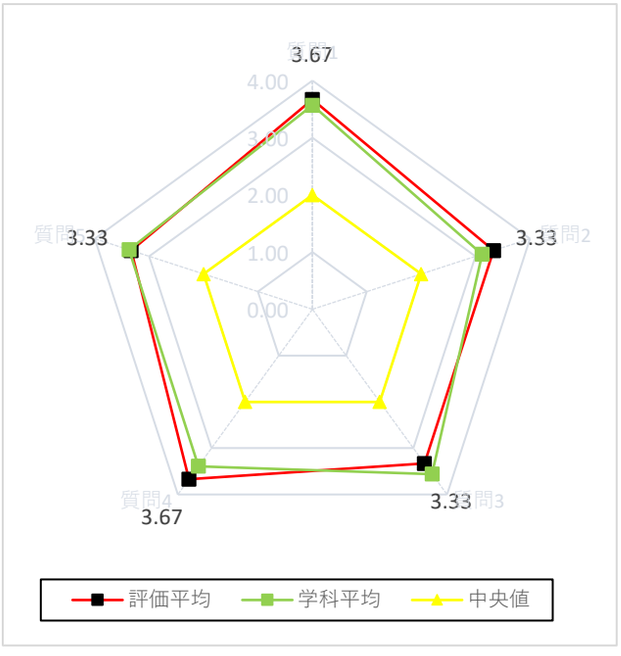
健康福祉海外演習はコロナ禍の中でできるPBL学修に挑戦した。参加型の授業であったことから学生たちの満足度も高かったように思われる。

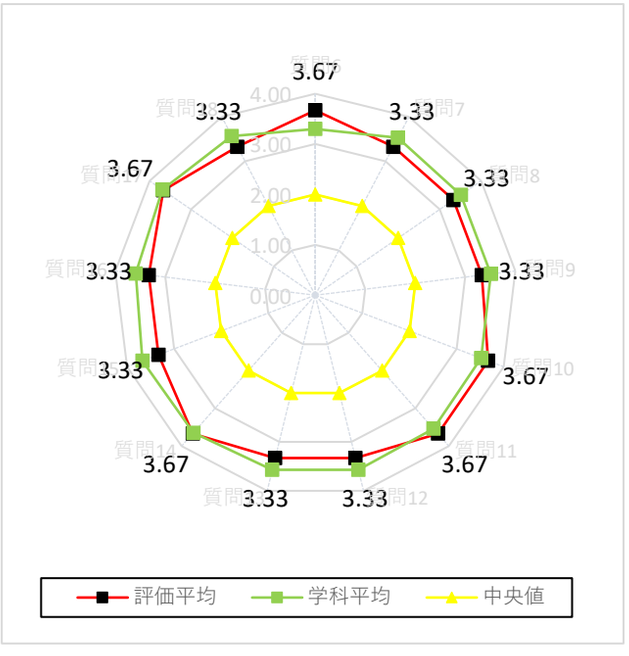
（３）次年度に向けての取り組み

留学生と日本人学生の交流を目的とした授業設計をしていたものの、留学生が来日できず、今回は日本人学生のみで実施した。今後はコロナ禍でもオンラインを活用するなど留学生との交流を増やせるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		司法福祉論	8名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

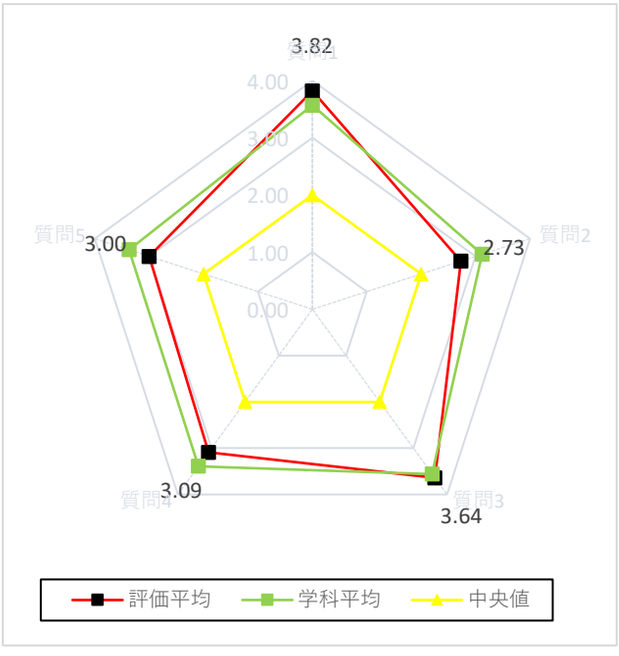
Zoomによるオンライン講義のため、実際に受講生がどのような受講態度だったかは、確認出来ていない。
また、双方的な講義にはなっていない。

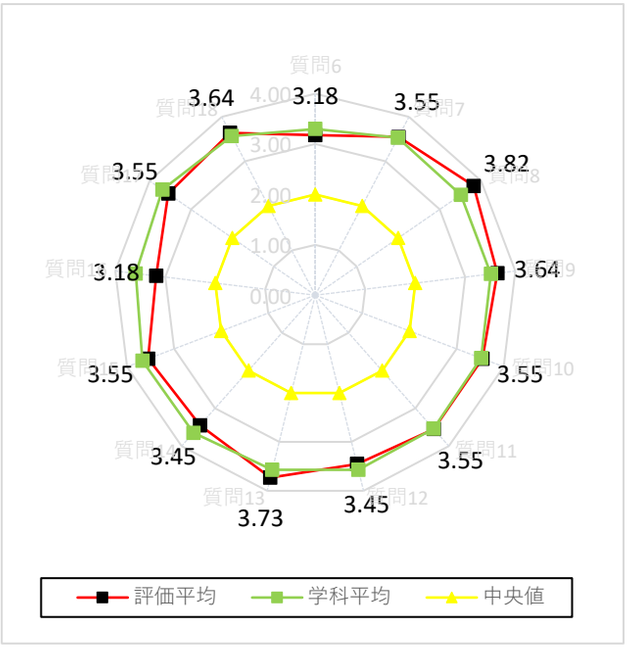
（３）次年度に向けての取り組み

オンライン講義でも、受講生が参加しやすい、参加したくなるような講義にする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		家政学概論	26名

（１）学生による授業評価結果





（２）結果の分析と評価

新型コロナウイルスの流行に伴い、講義形態の検討が求められる中、基本的には対面授業を取り入れて行った。ほとんどの項目が学科平均値とほぼ同数値の結果となっているが、一部、学科平均値を下回っている項目があるため、今後、検討したい。特に、質問６・シラバスについては、オムニバス形式の講義かつ講義開始日が他の科目と比較するとズレているため、早めに提示し、学生へ周知したい。

（３）次年度に向けての取り組み

大学からの方針で、講義形式は原則、遠隔授業となっているが、実習的要素もあるため、対面授業での実施を検討したい。また、双方向的なやり取りを行える工夫を凝らしていきたい。